

健幸ステーションの拠点化と分野横断型 SIB 事業調査
報告書

令和 3 年 3 月

福岡県飯塚市

株式会社 日建設計総合研究所

株式会社 つくばウエルネスリサーチ

目次

1.本調査の概要

1-1 調査の目的.....	1-1
1-2 飯塚市の概要	1-1
1-3 事業提案に至った経緯・課題.....	1-3
1-3-1 当市が抱える課題.....	1-3
1-3-2 上位計画との関連.....	1-4
1-3-3 飯塚市におけるこれまでの取り組み.....	1-5
1-4 本事業における検討体制.....	1-7

2. 本事業における調査及び分析の実施内容

2-1 調査分析の実施内容.....	2-1
2-1-1 調査分析実施にあたって考慮するポイントの整理	2-1
2-1-2 実施する調査分析について	2-3
2-2 実施スケジュール	2-6

3. 健幸ステーション事業について

3-1 健幸ステーションに期待する役割.....	3-1
3-2 国内における参考事例の調査.....	3-3
3-2-1 新潟県見附市における取り組み.....	3-3
3-2-2 静岡県三島市における取り組み.....	3-8
3-2-3 愛知県大府市における取り組み.....	3-9
3-3 健幸ステーションの機能定義.....	3-11

4. 飯塚市における地域交流センターの運営実態調査と 重点整備施設の抽出

4-1 地域交流センターの概要.....	4-1
4-1-1 二瀬交流センター.....	4-3
4-1-2 幸袋交流センター.....	4-6
4-1-3 鎮西交流センター.....	4-9
4-1-4 菰田交流センター.....	4-12

4-1-5 立岩交流センター	4-15
4-1-6 飯塚東交流センター	4-18
4-1-7 飯塚片島交流センター	4-20
4-1-8 鯉田交流センター	4-22
4-1-9 穂波交流センター	4-24
4-1-10 筑穂交流センター及び筑穂ふれあい交流センター	4-26
4-1-11 庄内交流センター	4-30
4-1-12 穎田交流センター	4-33
4-2 重点整備施設群の選定検討	4-36

5. 実証実験による市民ニーズと潜在需要の把握

5-1 健幸ステーション実証実験	5-1
5-1-1 実証実験計画概要	5-1
5-1-2 実施結果及び結果に基づいたニーズの把握	5-1
5-2 アンケート結果	5-6
5-3 事業展開における商圈分析	5-13
5-3-1 1次商圈内の人口	5-13
5-3-2 来店人数の推定	5-15

6. 市場調査の実施

6-1. ポートフォリオ型不動産ビジネス事業者へのヒアリング調査	6-1
6-1-1 ポートフォリオ型不動産ビジネス事業者について	6-1
6-1-2 本ヒアリング調査が必要とされる理由	6-2
6-1-3 ポートフォリオ型不動産ビジネス事業者へのヒアリング実施	6-3
6-2 ウェルネス産業へのヒアリング調査	6-7
6-2-1 C社（備忘は添付の参考資料を参照）	6-7
6-2-2 D社（備忘は添付の参考資料を参照）	6-10
6-2-3 E社（備忘は添付の参考資料を参照）	6-12
6-3 企業の進出条件の整理（SIB・KPIを参照し、賃料・保証金に反映）	6-15
6-3-1 一般的なテナントと健幸ステーション事業者との想定比較	6-15
6-3-2 健康ポイントSIBを参照したKPI設定について	6-15
6-3-3 本事業で想定される進出条件について	6-20

7.事業スキームの提案と各事業採算性分析

7-1	提案する事業スキーム	7-1
7-1-1	個別運営方式	7-1
7-1-2	協議会運営方式	7-2
7-1-3	健幸 SIB 連動型事業方式	7-3
7-2	3つの事業スキームに対する事業採算性分析	7-6
7-2-1	モデルケースの想定	7-6
7-2-2	個別運営方式における事業採算性分析	7-7
7-2-3	協議会運営方式における事業採算性分析	7-16
7-2-4	健幸 SIB 連動型事業方式	7-22
7-2-5	事業分析結果を踏まえた事業モデルの結果	7-28
7-3	VFMの手法を援用した事業手法分析と提案	7-29
7-3-1	個別運営方式におけるコスト比較	7-29
7-3-2	協議会運営方式におけるコスト比較	7-32
7-3-3	健幸 SIB 連動型事業方式	7-34
7-3-4	本節の結論	7-37
7-4	想定事業者へのサウンディング	7-38
7-5	リスク分担	7-39
7-5-1	官民役割分担の検討	7-39
7-5-2	官民役割分担の検討	7-43

8. ロードマップの検討

8-1	実現に向けた課題整理	8-1
8-1-1	提案事業の総括	8-1
8-1-2	実現に向けた課題整理	8-3
8-2	ロードマップの提案	8-5

1. 本調査の概要

1. 本調査の概要

1-1 調査の目的

飯塚市が2017年1月に策定した立地適正化計画では、都市機能誘導区域の地区交流センターを拠点施設と位置づけ、効率的に整備・維持管理することで、少子高齢化社会に対応した拠点連携型の都市構造を目指している。また、本計画の総合的成果目標である健康寿命延伸及び超高齢化に伴う医療費の財政負担軽減を図るため、「健幸ステーション」を地域の拠点施設と位置づけ、先の拠点施設と一体的に整備・運営し、地区の賑わい創出と健康増進の両立を目指すことが重要だと考えている。

このような背景を踏まえ、本事業では、健康福祉とまちづくりの分野横断的な取組みの視点から、既存の公共施設を活用した「健幸ステーション」を設置し、その効率的な整備、維持管理方策等の事業計画手法を検討することを目的とする。また、本事業では、民間活力導入による効率的な事業手法を構築することを目指す。

1-2 飯塚市の概要

飯塚市は、面積約214km²、人口約127,000人（令和3年1月末現在）の福岡県の中央付近に位置する都市である。当市は、1889年の町村制の施行と同時に旧徳前町、旧菰田村と合併し、飯塚町として発足したのが始まりである。その後、1909年笠松村と合併し新町制による飯塚町となり、1932年に市制が施行され、飯塚市となった。そして、1963年に二瀬町、幸袋町、鎮西村の隣接3町村との合併が行われたのち、2006年に飯塚市・穂波町・筑穂町・庄内町・潁田町が合併して、現在の飯塚市となった。飯塚市ホームページにて公表されている市の人口概況及び地区ごとの人口概況を次頁の表に示す。

JR九州は、篠栗線、筑豊本線、後藤寺線が走っており、飯塚市中心部から博多駅まで、電車で約35分、小倉駅まで約50分という利便性で、両政令都市への通勤・通学圏内となっている。

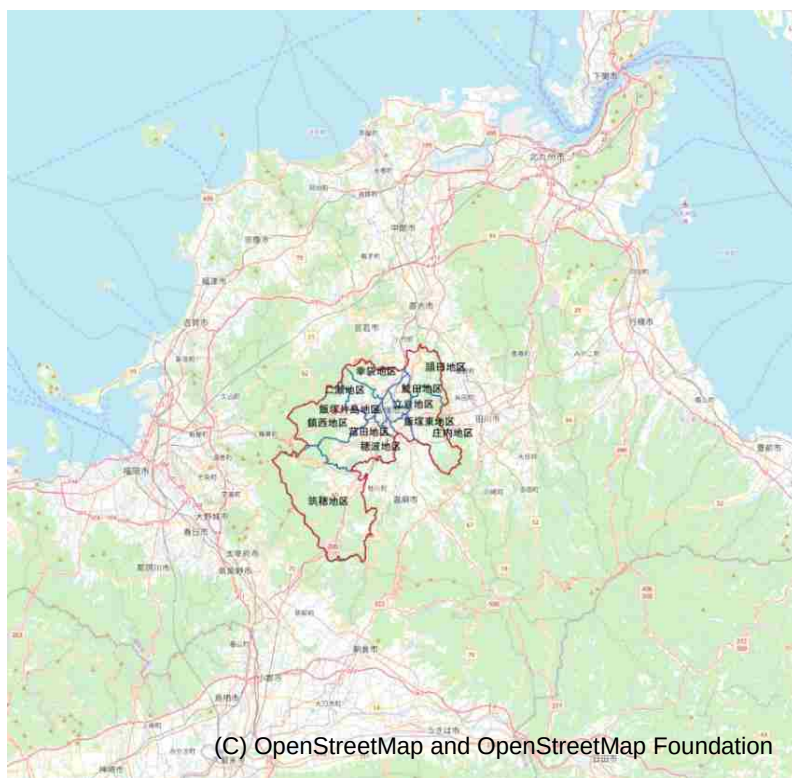


図 1.1 飯塚市位置

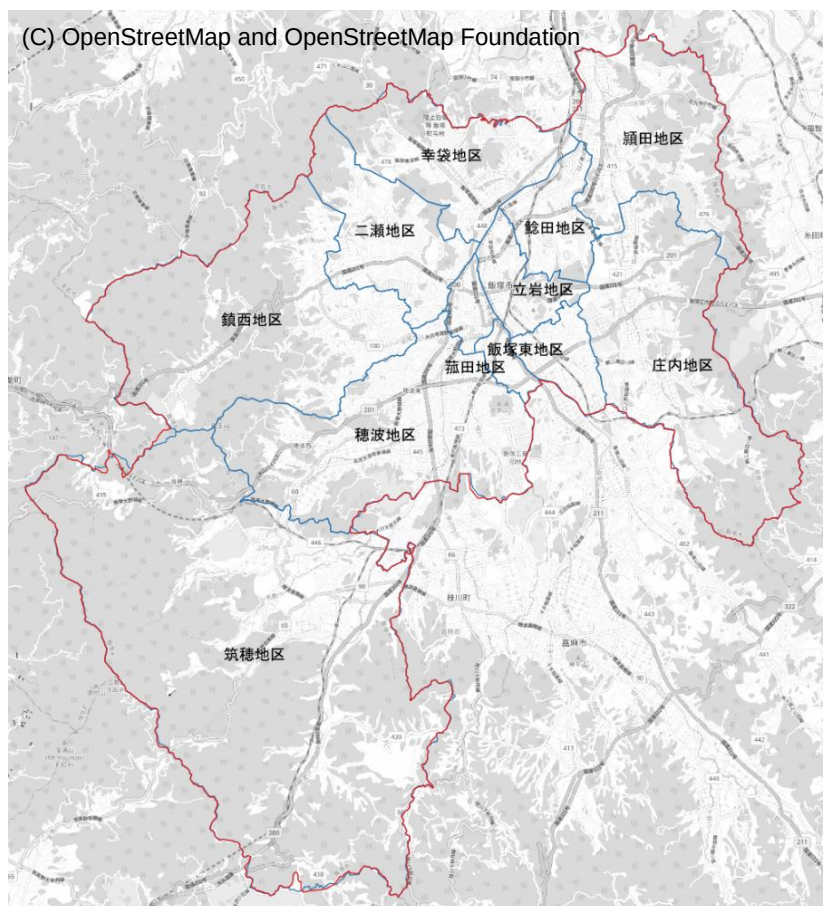


図 1.2 飯塚市各地区の位置

表 1.1 人口概況

総人口	127,449	(-103)
男	60,531	(-36)
女	66,918	(-67)
総世帯数	62,783	(+5)

表 1.2 地区ごとの人口概況

地区名		男	女	計	世帯数
飯 塚	飯塚	13,797	15,865	29,662	14,995
	二瀬	9,288	9,535	18,823	9,973
	幸袋	4,770	4,919	9,689	5,024
	鎮西	5,499	6,166	11,665	5,500
	鯉田	2,981	3,470	6,451	3,105
	計	36,335	39,955	76,290	38,597
穂 波		12,154	13,572	25,726	12,073
筑 穂		4,518	5,021	9,539	4,391
庄 内		4,980	5,508	10,488	4,942
額 田		2,544	2,862	5,406	2,780

1-3 事業提案に至った経緯・課題

1-3-1 当市が抱える課題

飯塚市が抱える課題として、当事業に関連する下記の 5 つの課題を挙げる。

1) 高齢社会・人口減少社会の進展

国勢調査によると、飯塚市の人口は減少傾向にある。中でも年少人口（0 歳から 14 歳）、生産年齢人口（15 歳から 64 歳）が減少傾向にある一方で、老年人口（65 歳以上）は増加傾向にあり、少子高齢化が進展していることが確認できる。

2) 地域コミュニティ機能の低下

高齢化や人口減少に伴って、地域を支える人材の高齢化と人材不足が懸念されている。飯塚市によれば、自治会加入率が現在低下傾向にあり、地域の人とのつながりが強いと思わない人が半数近い年代も多くみられる（「第 2 次いづか健幸都市基本計画」より）。地域活動の担い手の不足は、地域コミュニティ機能の低下につながる。地域コミュニティは多くの場面で地域を支えるいわば基盤であり、地域コミュニティ機能の低下は、市全体のレジリエンスに大きくかかわる問題である。

3) 中心市街地におけるまちの賑わい・活力の低下

飯塚市中心市街地活性化計画での調査によると、現在飯塚市の中心市街地では、中心商業圏の空洞化や経済活力が低下している状況にある。飯塚市における小売商業、サービス業は郊外への大型店や専門店の相次ぐ出店や福岡商業圏との競合等により、営業店舗が減少した。また 3 割を超える空き店舗の存在、人口減少や少子高齢化に伴う店主の後継者不在等の問題も抱えている。

こうした中心市街地における商業機能の低下は、まちなかの賑わい活力の低下と直結しており、飯塚市としては、商・住一体となった生活空間としての商業環境の魅力づくりを課題の一つとしている。

4) 公共施設運営の非効率性

人口減少などにより、市の主要な財源である市民税の減少が見込まれること、地方交付税の合併特例措置が段階的に減額されること等、市の財源の効率的な利用は喫緊の課題の一つであり、これに伴って公共施設の最適化・効率的な経営が求められている。「飯塚市公共施設等のあり方に関する第 3 次実施計画」では、公共施設の総量・配置の最適化だけでなく、収益の見込める施設については運営主体及び運営方法を最適化することによって収支の最適化についても目的に掲げている。現状の公共施設運営の非効率性を改善し、収益の見込める部分では適切な官民連携によって、収支状況の改善を行うことが求められている。

5) 地域交流センターの拠点化

飯塚市では平成 30 年から市内 12 地区の地区公民館を地域交流センターへの移行を開始した。公民館の根拠法である社会教育法上の制約を緩和することで、安全・安心なまちづくりや地域福祉の拠点としての機能を強化し、民間の力も加えた柔軟な施設利用を図ることによって、地域交流センターの地域のさらなる拠点化を目指している。

地域コミュニティ機能の低下が問題になっていることは先述の通りであるが、人口減少社会の進展によって、まちづくり協議会をはじめとした地域活動団体の担い手の不足や、高齢化、固定化もまた一つの問題である。交流センターはまちづくりの拠点であり、地域コミュニティ拠点となる施設であるが、先述の通り、その効率的な運営と、有効利活用は非常に重要な課題であり、本事業において求められている点の一つであるといえる。

1-3-2 上位計画との関連

本事業の根拠となる上位計画を次に整理する。

1) 第2次飯塚市総合計画（2026年まで）

地方自治の本旨に基づき、市民の福祉の増進を基本として総合的かつ計画的な市政の運営を図るため、今後10年間のまちづくりの方向性を示す「第2次飯塚市総合計画」が策定されている。本計画は飯塚市の市政運営における最上位計画であるとされている。本計画は「都市目標像」、「まちづくりの基本理念」、「政策分野」からなる基本構想を上位概念として、各種施策の基軸が定められた基本計画に続く。

本総合計画における基本計画について、本事業に関連する内容について述べる。まず、「効果的・効率的な行政運営の推進」として、飯塚市では行財政改革単年度効果額の2026年までの目標として11.3億円としており、本事業でも効率的な行政運営の促進に貢献することが重要である。次に、「公共施設等の最適化と有効利活用」として、公共建築物の延べ床面積を約4.5万㎡削減することが目標とされている。財政を圧迫する公共建築物の効率的な利用は喫緊の課題であり、本事業で焦点を当てる地域の拠点である「地域交流センター」の効率的な利用とまちの拠点としての有効利活用は重要な課題であることが確認できる。続いて、「健幸都市づくりの推進」として、健康寿命の延伸が目標として掲げられており、健康都市づくりの具体的な推進方法を示す本事業が総合計画の観点からも重要な事業であることがわかる。

2) 第2次いづか健幸都市基本計画

「いづか健幸都市基本計画」の計画期間満了に伴い、改めて健幸まちづくりの視点を踏まえた計画として、平成31年度から令和5年度までの「第2次いづか健幸都市基本計画」が策定された。「第2次いづか健幸都市基本計画」では、安全安心で豊かな生活を営むことができることを「健幸」ととし、「健幸」をまちづくりの中核に位置付けた「健幸都市の実現」を目指している。

3) 飯塚市立地適正化計画

飯塚市立地適正化計画においては、①「中心拠点」と②「地域拠点」（旧町中心部）に加え、新たな地域づくりの要となる③「コミュニティ拠点」、本市の魅力を高める3つの④「大学」を都市の骨格構造として捉え、これらの区域と交通便利地域内の比較的人口密度の高い、都市機能を維持するための⑤「暮らし維持型」の区域を都市機能誘導区域に設定し、5つの都市機能誘導区域の類型に応じた重層的な区域設定を行い、拠点性の回復と将来にわたる暮らしの維持を図ることとしている。

4) 飯塚市公共施設等のあり方に関する第3次実施計画

本計画は全ての公共施設を対象に、適正配置、運営主体の適否、効率的な運営方策、利用率の向上策などを含めた公共施設のあり方や市民負担の公平性確保の観点から公の施設使用料等の適正な受益者負担のあり方などについて定めるものであり、2016年に策定した「第2次公共施設等のあり方に関する基本方針（公共施設等総合管理計画）」を上位計画とし、上述の「飯塚市立地適正化計画」との整合性を図りながら策定された。

本事業は「飯塚市立地適正化計画」に掲げる拠点施設について、受注者が施設運営の一部を担うSIBに取り組むもので、健幸都市の実現と施設管理の財政負担の軽減、さらには公共施設の継続的な運営手法の確立を図るための調査を実施する健康福祉とまちづくりの分野横断的な事業であり、この第3次実施計画と整合性のとれた事業であるといえる。本事業では中でも、「第2次公共施設等のあり方に関する基本方針」における②総量の最適化推進、③効率的、効果的な配置の推進、④運営の最適化推進について参考となる事例の調査を行っている。

1-3-3 飯塚市におけるこれまでの取組み

1) スマートウェルネスシティ展開事業

総務省によるデータ利活用型スマートシティ推進事業の一環として、「健幸ポイントサービス」、「健幸型“MaaS”」の開発と導入、「ビッグデータによる“まちづくり意思決定支援サービス”」の開発と導入」を目指す実証事業を行った。

2) 健幸ポイント事業

「第2次いづか健幸都市基本計画」を背景として、市民の健康増進のための取り組みとして「健幸ポイント事業」が実施されている。これは先に説明をしたスマートウェルネスシティ展開事業の一つとして実施された「健幸ポイントサービス」が継続された事業である。具体的には、運動目標、健康診査の受信、健康に関する教室・イベント等への参加に対して健幸ポイントを市民へ進呈する。健幸ポイントは地域振興券等に還元され、地域商業の賑わいと市民の健康増進とを同時に進める取り組みであるといえる。



図 1.3 スマート・ウェルネス・シティサービス展開事業で構築した位置測位機能付きの歩数計測アプリ画面



図 1.4 健幸ポイント事業 2020

3) 旧ダイマル跡地暮らし・にぎわい再生事業

飯塚市では、中心市街地活性化の基本方針である「人が集い、交流する賑わいと憩いの場づくり」を具現化するハード事業の核となる事業として、中心市街地の主要な位置にある旧ダイマル商店跡の再生を行った。具体的には、国の補助事業である「暮らし・にぎわい再生事業」を活用し、株式会社まちづくり飯塚が、中心商店街の中央に位置する平成11年に倒産したダイマル商店を取得・解体し、新たに「飯塚本町コミュニティビル」として整備した。

コミュニティビル1階を市が取得し、「健康を実感できる交流空間」、「癒しと安心感のある時間消費型の空間」を創出する健康増進・市民交流の拠点施設として「健幸プラザ」を設置した。「健幸プラザ」では、トレーニング室等が利用可能であり、各種運動教室等が開かれている。

4) SIBを活用したフレイル予防実証事業

飯塚市では、2017年度よりフレイル予防事業を行っているが、2019年に飯塚市と福岡地域戦略推進協議会（FDC）はフレイルチェック等を通じて市民の健康寿命の延伸や地域の一層の活性化に資するための実証事業の実施にあたり、連携協定を締結した。SIBを活用し、民間資金を用いるフレイル予防の多面的な効果を実証し、成果指標を採るものである。この事業では、フレイル予防事業のさらなる展開に向

け「フレイル予防」の多面的な成果の可視化を目的に、SIBを活用した実証事業を実施している。民間資金を用いて実験的にサービスを提供し、得られたデータをもとに、医療費削減の視点だけでなく、まちづくりの視点も含めた社会的インパクトを可視化できる成果指標の作成を目指すものである。2019年に上述の「健幸プラザ」にてフレイルチェックを初開催した。



図 1.5 健幸プラザ



図 1.6 フレイル予防実証事業

1-4 本事業における検討体制

本事業実施にあたり、事業実施の検討体制を整理する。本事業は、官民連携による健康福祉とまちづくりの分野横断的な事業であり、下図に示すように健幸都市推進を担う市民協働部健康・スポーツ課と、企業誘致等、官民連携を担う経済部産学振興課とが連携しながら事業を進めた。

今後実際に官民連携による SIB 事業を実施していくにあたっては、様々な立場の主体が総合的に関わる事業であることから、庁内での複合的な連携体制構築が重要である。

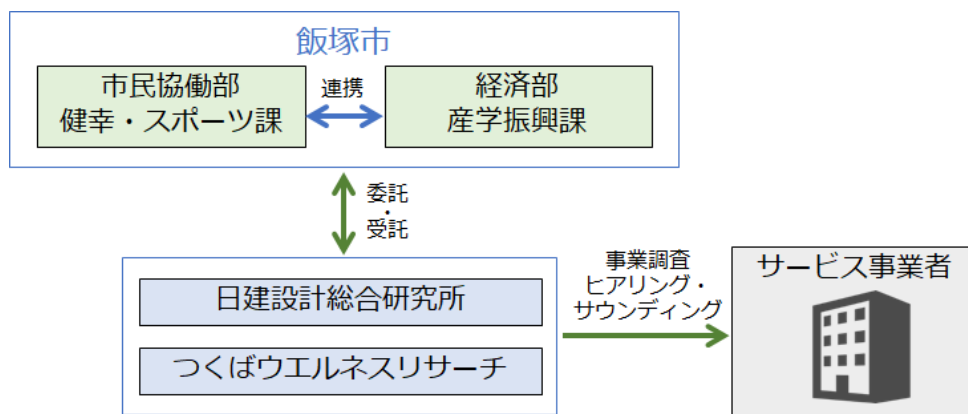


図 1.7 本事業における検討体制

2. 本事業における調査及び分析の実施内容

2. 本事業における調査及び分析の実施内容

2-1 調査分析の実施内容

2-1-1 調査分析実施にあたって考慮するポイントの整理

本事業の実施方針について、下記の通り3つのポイントを設定し調査を実施した。

・ポイント①：「健幸ステーション」が担うべき機能を明確に定義する

飯塚市が掲げる「健幸ステーション」は、国内でも珍しい施策であり、その効果を十分に発現するにはその施設の定義と担うべき機能を明確にすることが重要である。健幸ステーションの概念と期待する派生機能としては、以下が考えられる。

【健幸ステーションの主な機能】

- ・日常生活に密着した健幸相談や健康教室の場
- ・各種保険サービスの提供 等

【期待される派生的機能：高齢者人材の有効活用】

- ・労働力不足の解消
- ・様々な働き方を可能にする柔軟な雇用環境の構築
- ・社会的役割を持つことによる高齢者の生きがいの促進

・ポイント②：「公共施設の管理運営効率化」と「市民の健康増進」を同時実現できる政策手法の開発

都市経営の効率化目線では、「公共施設の管理運営」と「市民の健康増進」を同時に実現することで、インフラ維持管理費用と健康福祉費用の同時削減が目指せることが理想である。そこで、上記の同時実現を目指した「公共施設の運営管理に関する SIB 事業モデル」と「健幸ポイント事業に関する SIB 事業モデル」の統合化モデルの実現可能性を検討することが効果的であり、本事業においては下図の事業スキームを提案し、その有効性の検討を行った。その際には、SIB 事業モデルを含まない他の事業方式とも比較し、どの方式が最も効率的であるのかも同時に検討した。

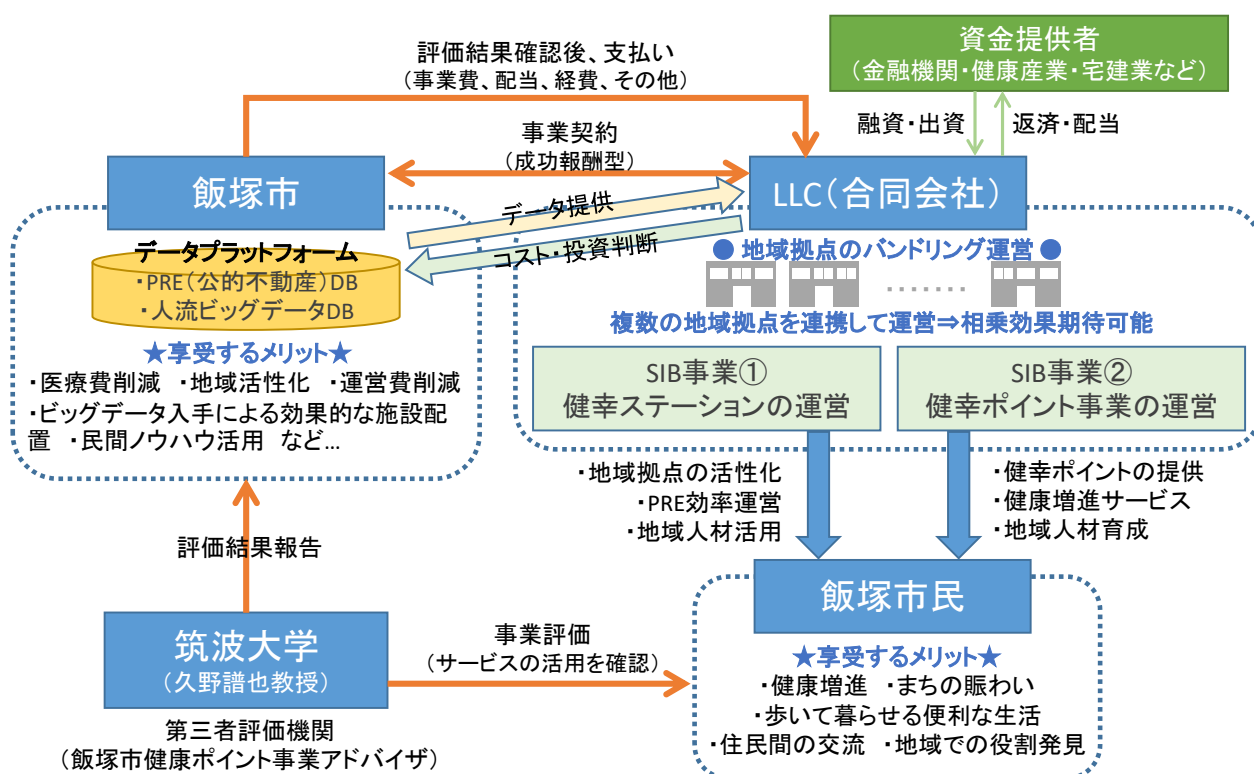


図 2.1 本事業で提案する事業スキームの1例(SIB 事業モデル)

・ポイント③：シルバー人材の有効活用等による経費削減の工夫

健幸ステーションの黒字化経営を目指すには、人件費などの支出削減が必ず必要になるが、その際、飯塚市が課題として掲げる高齢者の有効活用施策（「労働力不足の解消」、「様々な働き方を可能にする柔軟な雇用環境の構築」、「社会的役割を持つことによる高齢者の生きがいがづくりの促進」）との同時実現を図ることが効果的である。従って本事業においては、飯塚市シルバー人材センターを活用した官民連携事業手法の開発についても検討する。

上記 3 つのポイントを踏まえて、下記に本業務のフロー及びロードマップを示す。各項目については次節で詳細に述べる。

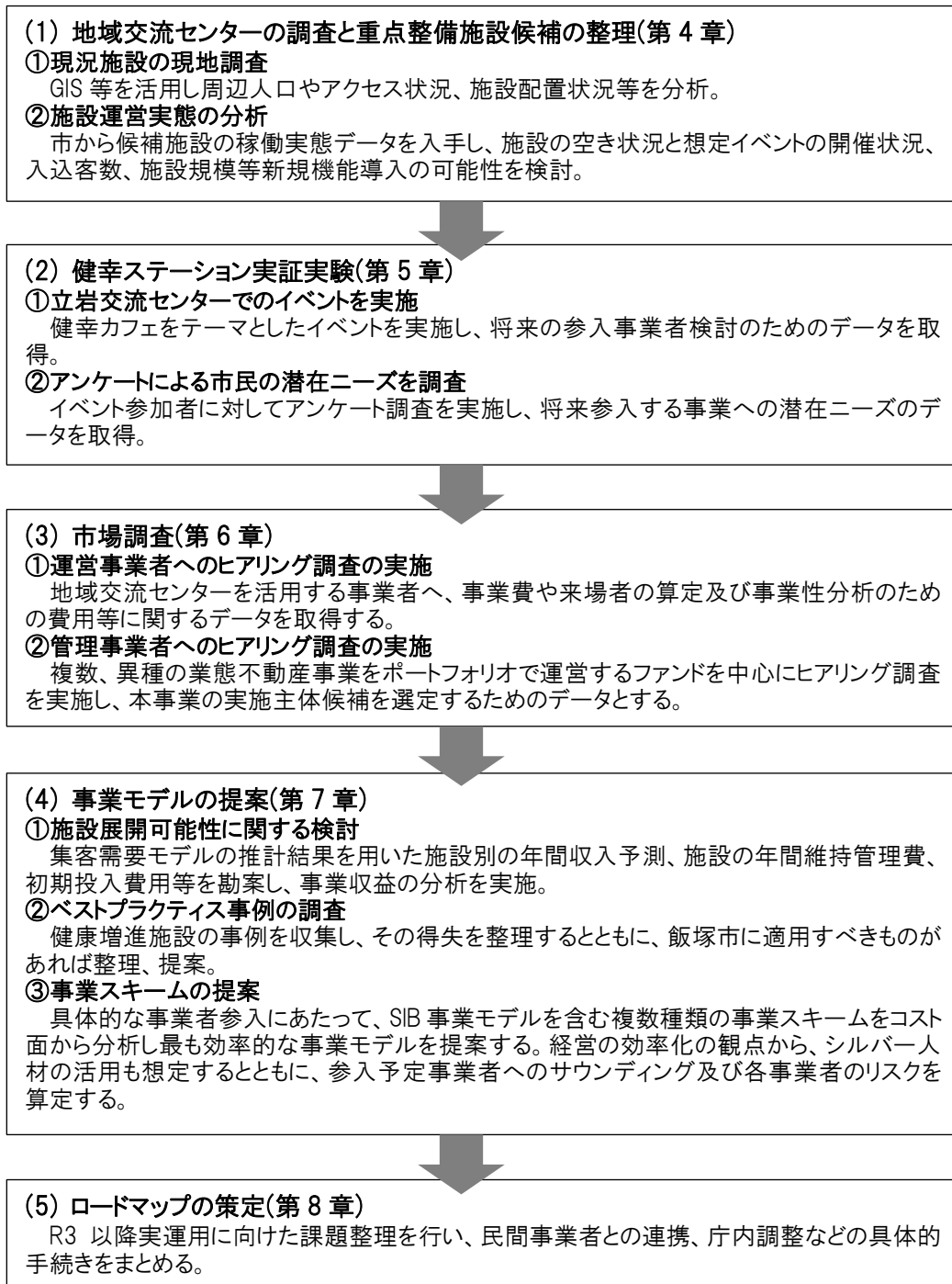


図 2.2 調査の実施フロー

2-1-2 実施する調査分析について

前項で整理した 3 つのポイントに基づき、本事業においては下記の調査を実施した。

(1) 飯塚市における地域交流センターの運営実態調査と重点整備施設の抽出(第 4 章)

①現況施設の現地調査及び②施設運営実態の分析

限られた財源・設備を効果的に利用するため、候補施設のうち実際にどの施設で事業を展開するのかについては、各施設の立地条件・規模条件等を踏まえ、定量的に検討する必要がある。特に事業者へ事業運営を依頼するにあたっては、事業運営に影響を及ぼす可能性の高い各種必要情報を明らかにし、事業者側が収益分析等の具体的な事業検討をできる環境を提供することが重要である。

そこで、本事業を提案する上で全 12 施設の各種情報を収集し、重点的に検討を行う 4 施設を抽出するための分析を行った。そのために、現地調査から得られたデータに加え GIS 等を活用した周辺人口やアクセス状況、施設配置状況等のデータを活用した(下表)。

表 2.1 候補施設の利用実態調査と重点整備施設の分析に用いたデータ

分析データ	項目	調査・分析内容／データ入手方式等
人口に関するデータ	周辺人口分布	(GIS) 年代別・地域別居住状況の分析
立地条件に関するデータ	立地条件	(GIS) 周辺道路状況、バス停、駅までの距離
		(GIS) 周辺施設との位置関係
施設の緯度・経度データ	歩きやすさ	(GIS) 徒歩圏内にある主要施設の数
施設概要のデータ※	施設面積	記述式
	建築面積	記述式
	延床面積	記述式
	階数	選択式
	部屋数・間取り	記述式・図面記入
	築年数	記述式
	改築の有無・内容	記述式
	駐車台数	記述式
	駐輪台数	記述式
施設の収支状況に関するデータ※	施設関連費(支出)	光熱費・保険料・委託費・設備費別
	人件費(支出)	職員賃金・謝礼
	その他(支出)	維持管理費・負担金等
	収入	使用料
利用者に関するデータ ※個人情報に配慮し、アンケートによって収集	利用者分布	利用者毎の住所(町丁目レベルまで)
	利用者属性	利用者毎の年齢・性別
	利用状況	利用者毎の利用頻度・内容

※飯塚市提供データを使用。詳細は各章を参照。

(2) 健幸ステーション実証実験(第5章)

①立岩交流センターでのイベントを実施

本事業で提案する事業スキームと民間事業者の活用に向けて、健幸ステーションの利用実態や民間事業参入に際しての市民ニーズ・潜在需要を把握することを目的とした実証実験を実施した。イベントの内容としては、立岩交流センターにおいて健幸カフェ事業者が参入した場合を想定して、健幸カフェをテーマとしたコーヒー及びケーキの提供を実施した。

②アンケートによる市民の潜在ニーズを調査

本実証実験においては、既に飯塚市で実施されている健幸ポイント事業の参加者に対して、1日限定のイベント及び参加者へのアンケート調査を行った。質問項目としては、実証実験を実施した健幸カフェに加えてスポーツジム、健康器具販売会社が参入した場合も想定し、それぞれの潜在ニーズを把握した。

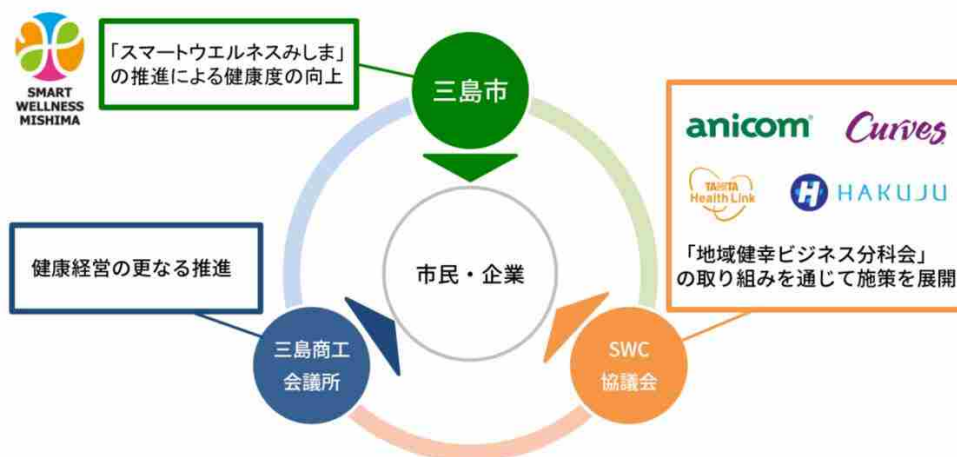
(3) 市場調査：地域交流センターで事業運営を実施する候補事業者へのヒアリング実施と ポートフォリオ型不動産ビジネス事業者へのヒアリング調査(第6章)

①運営事業者へのヒアリング調査の実施

飯塚市も参加する「スマートウェルネスシティ（SWC）首長研究会」は、我が国の超高齢・人口減社会によって生じる様々な社会課題を自治体自ら克服するため、全国の首長が集結し平成21年11月に発足した組織（43都道府県106市区長村が参加）であるが、これと連携する形でスマートウェルネスコミュニティ協議会(SWC協議会)が2015年に設立され、2018年に一般社団法人化している。

2020年3月に当一般社団法人が静岡県三島市において、地域の健幸（個々人が健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むことができること）課題解決を目的とする官民連携の「地域健幸ビジネス分科会」を立ち上げ、4月より市民の健康づくりに向けた横断的取り組みをスタートさせている。下図に三島市での取り組みイメージを示す。

【取り組みイメージ】



三島市・三島商工会議所・SWC協議会が一体となって地域の「健幸」課題を解決

図 2.3 三島市における健幸への取り組みイメージ

(一般社団法人スマートウェルネスコミュニティ協議会 プレスリリースより引用)

そこで飯塚市においても三島市同様、自治体、地元商工会議所、SWC協議会参加民間企業間で「健幸まちづくり連携協定」を締結することを想定し、健幸ステーションの活用に向けて、官民間・民間企業間で有機的且つ横断的取り組みの可能性を探る。ここでは健幸カフェ事業者及びスポーツジム事業者、健康器具販売会社の3社を対象として、健幸ステーションの活用の際の事業費や来場者の算定及び事業性分析のための費用等に関するデータを取得するためのヒアリング調査と、実際に地域交流センターを活用するためのサウンディング調査の2種の調査を実施する。

②管理事業者へのヒアリング調査の実施

複数、異種の業態不動産事業をポートフォリオで運営する不動産事業者（ディベロッパー、SC など）を中心としたヒアリング調査を実施して事業者と意見交換を行い、本事業の実施主体候補を選定するためのデータとする。ヒアリング先候補としては、下記の 2 業種を対象とした。

●大手不動産会社

大都市近郊及び郊外において主に都市居住のファミリー層を対象に、100%子会社の別会社で飲食・商業テナントなどによって構成される複合商業施設を運営する。

●大手ショッピングセンター経営企業

関東に本社を置く、日本国内外 300 社以上の企業で構成される大手流通企業グループ。各社の展開する商業店舗業態・規模は、総合スーパー、ホームセンター、スーパーセンター、スーパーマーケット、ディスカウントストア、小型店、ドラッグストア、ファッションビル、サービス業、専門店など多岐に亘る。

(4) 地域交流センターにおける民間事業者利活用のためのスキームの検討(第 7 章)

①施設展開可能性に関する検討

健幸ステーションにおいて、健幸カフェ及びスポーツジム、健康器具販売会社が事業を実施する場合の事業スキームを提案した。全 12 箇所の地域交流センターの管理運営費等も参照しつつ、主に立岩交流センターを基準として個別運営方式と協議会運営方式、健幸 SIB 連動型事業方式の 3 種類を検討した。

さらにその各事業スキームに対して、集客需要モデルの推計結果を用いた施設別の年間収入予測、施設の年間維持管理費、初期投入費用等を勘案し、事業採算性の分析を実施した。

②ベストプラクティス事例の調査

他市町村で実施している健康増進施設の事例を収集し、その得失を整理するとともに、飯塚市に適用すべきものを整理して提案した。

③事業スキームの提案

具体的な事業者参入にあたって、①で検討した SIB 事業モデルを含む複数種類の事業スキームをコスト面から分析し、最も効率的な事業モデルを提案する。経営の効率化の観点から、シルバー人材の活用も想定する。また参入予定事業者として健幸カフェ事業者及びスポーツジム事業者、健康器具販売事業者へのサウンディング調査及び各事業者のリスクを算定する。

(5) ロードマップの提案(第 8 章)

本事業において検討した事業スキームの R3 以降の実運用に向けた課題整理を行い、民間事業者との連携、庁内調整などの具体的手続きをまとめた。

2-2 実施スケジュール

前節で述べた 6 つの調査分析について、下表に示すスケジュールで実施した。

表 2.2 本事業の実施スケジュール

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
(1) 地域交流センターの調査と 重点整備施設候補の整理						
① 現況施設の調査						
② 施設運営実態の分析						
(2) 健幸ステーション実証実験						
① 健康カフェの実証実験						
② アンケートの実施と分析						
(3) 市場調査						
① 運営事業者へのヒアリング調査						
② 管理事業者へのヒアリング調査						
(4) 事業スキームの検討						
① 施設展開可能性に関する検討						
② ベストプラクティス事例の調査						
③ 事業スキームの提案						
(5) ロードマップの策定						

3. 健幸ステーション事業について

3 健幸ステーション事業について

3-1 健幸ステーションに期待する役割

本項では、飯塚市における上位計画を踏まえ、健幸ステーションの位置づけを検討する。

3-1-1 上位計画での位置づけ

①飯塚市第2次総合計画

同計画では、「健幸都市づくりの推進」を掲げており、“日常生活に密着した各種健康サービスの提供”や“食育の推進”、そして“健幸づくり拠点施設の整備と活用”を掲げている。

特に拠点施設については、その施設の整備のほか、老朽化施設の統廃合と改修を目指している。

さらに、同計画では、「高齢者が安心して暮らせるまちづくり」のなかで、「生き甲斐をもって生活できる環境づくりの推進」を掲げており、高齢者の地域貢献活動や就労支援により、生き甲斐を持ち、介護予防に繋げることを目指している。

②いづか健幸都市基本計画（平成26年3月）

飯塚市では、新生児から高齢者まで全ての人が健康づくりの推進、生涯にわたる生き生きとした健康社会を実現するため、同計画を策定している。同計画では、“拠点・コミュニティづくり”、“健幸づくり”、“公共交通ネットワークづくり”の3本柱を中心に据えている。

特に拠点・コミュニティづくりでは、従来の治療・介護から、「予防」を重視した取り組みを進めることを掲げている。

また、「まちづくり協議会※」など市内12地区において、健幸推進員（仮称）の育成により、各地区での健幸づくりや運動イベントを住民主体で進めることを目指している。

さらに、この健幸都市を実現するため、コンパクトなまちの創出により、歩行を促進する点を推進している。

※まちづくり協議会：地域住民の民意や総意を代表し、自立性と主体性を基本としながら、地域づくりに取り組む組織であり、各地域におけるまちづくりを推進することを目的としている。

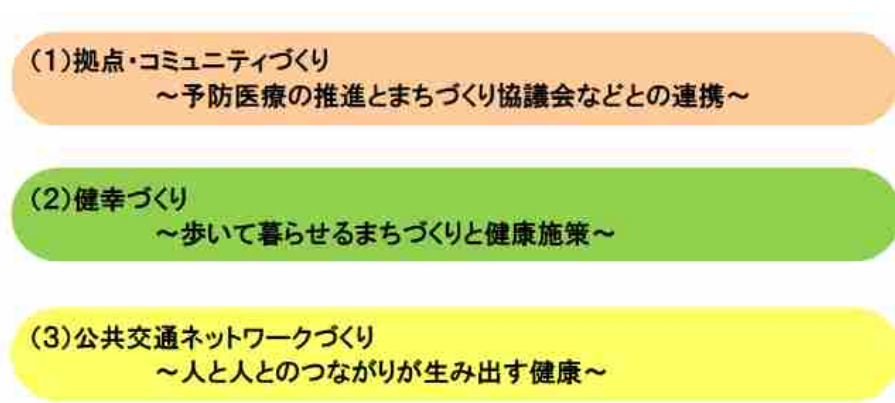


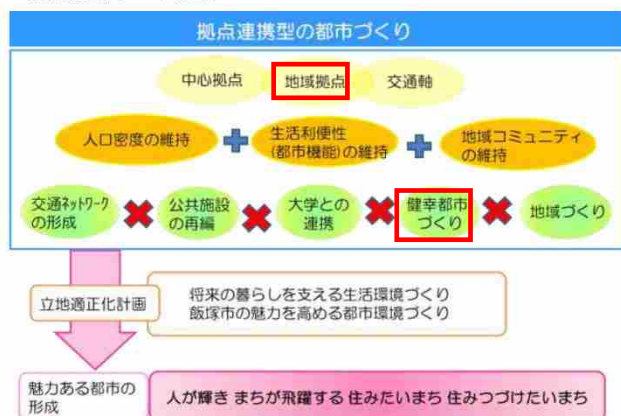
図 3.1 健幸都市基本計画の3本柱

③飯塚市立地適正化計画

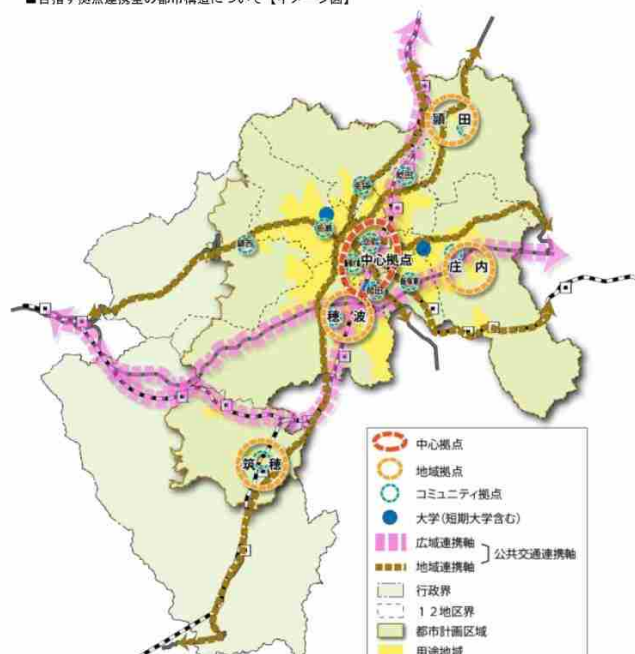
同計画では、人口減少社会に対応した当市の都市構造の推進像を示しているが、このなかで、地域拠点の形成とともに、健幸都市の実現を推進することを目指している。

また、コンパクトシティの核となる地域拠点となる地区として、12か所のコミュニティ拠点を中心として形成することを目指すとともに、まちづくり協議会の活動と連携することの重要性を明記している。さらに、このコミュニティ施設を、地域コミュニティの増進と健康増進を進める拠点施設と位置付けている。

■拠点連携型都市づくり 整理図



■目指す拠点連携型の都市構造について【イメージ図】



■都市機能増進施設の位置づけ

施設分類	具体的な施設
生活利便施設 (通所型)	商業施設・医療施設・福祉施設・子育て施設・教育施設 (詳細は下表(※①)のとおり)
地域コミュニティ増進施設 健康増進施設	地区公民館、健康プラザ、商店街
本市を特徴づける広域性の高い 都市機能増進施設	大学、短期大学、拠点性を有する医療施設等

図 3.2 飯塚市立地適正化計画の概要

3-1-2 上位計画を踏まえた健康ステーションの位置づけ

本市では、健康都市づくりが市の政策の中心に据えられており、そのなかで市内12カ所の地域交流センターを中心とした健康増進機能の導入が掲げられている。

また、このコミュニティ施設は、立地適正計画における地域の核となる地区であるとともに、まちづくり協議会等地域コミュニティの活動拠点にも位置付けられている。

これらの点から、本事業で提案する「健康ステーション」は、地域の交流拠点となる「地域交流センター」連携して整備していくことが望ましいといえる。

さらに、総合計画では、高齢者の就労機会増進による介護予防についても言及しており、健康ステーションにおいては、高齢者へのサービス提供だけでなく、「高齢者を活用したサービス提供」という概念も必要になると考える。

3-2 国内における参考事例の調査

健康ステーションの実施にあたり、参考となる国内の先進事例として、新潟県見附市と静岡県三島市における取り組みについて調査を行った。

3-2-1 新潟県見附市における取り組み

見附市には、見附市立病院と、旧ショッピングセンター跡地を市が買い取って再開発を行った「ネーブルみつけ」に「健康の駅（※1）」が設置されている。

※1「健康の駅」とは（下記、「健康の駅推進機構」HP 参照）

「健康の駅」とは、地域住民の健康維持・増進を目的に地域住民が集い健康に関する活動を行う交流拠点で、特定非営利活動法人地域交流センター内「健康の駅推進機構」が認証を行っている。認証を受けるためには、下記の要件を満たす必要があり、現在、全国に 19 の駅が設置されている。

【健康の駅 認証要件】

① まちの駅の設置条件を満たす。

設置条件

- ・地域の情報を説明する案内人（駅長）がいること。
- ・トイレと休憩場所を開放していること。
- ・まちの情報があること。
- ・健康の駅（まちの駅）の看板を掲げること。

② 健康維持増進を主目的のひとつとして活動し、提供されるサービスと情報が健康づくりに有効という根拠（エビデンス）がある。

③ 健康の駅の活動に関わる説明情報が開示されている。

④ 医療・福祉施設および団体または自治体との協力体制がある。



図 3.1 健康の駅認証マーク

No.	自治体名	健康の駅名
1	北海道留萌市	健康の駅るもい
2	秋田県横手市	健康の駅よこて
3	福島県石川郡玉川村	健康の駅たまかわ
4	新潟県見附市	見附市立病院
5		ネーブルみつけ
6	新潟県長岡市	健康の駅ながおか
7		健康の駅わいが家
8	東京都国分寺市	リハセンター人参・健康の駅
9	山梨県北杜市	健康の駅増富
10	長野県飯田市	健康の駅ほりばた
11	福井県勝山市	湯ったり勝山
12	三重県いなべ市	元気クラブいなべ
13	岐阜県白川町	健遊館美濃白川
14	静岡県富士宮市	健康の駅百恵の郷
15	岡山県岡山市	岡山旭東病院
16	熊本県益城町	健味健食園
17	鹿児島県鹿児島市	健康の駅神ノ川
18	鹿児島県姶良市	フォントナの丘かも
19	沖縄県北中城村	グクルの森

表 3.2 健康の駅一覧

(1) 見附市立病院における事例

本駅は、自治体病院内にある全国で唯一の「健康の駅」であり、2008年に設置された。自治体病院内への設置については課題があったが、アコーディオンカーテンで仕切りを設け、独立したスペースとすることにより、設置が認められた。

① 施設概要

施設名：見附市立病院

設置場所：見附市立病院内

② 運営概要

開設曜日・時間：月～金曜 AM9:00～PM4:00（祝日除く）

実施内容：1) 総合相談窓口

2) 健康度チェック・健康づくり体験

（脳年齢、血管年齢、エアロバイク、ジョーバ等）

4) 健康等に関する情報提供

5) 交流、仲間づくり

6) 園芸福祉

※新型コロナウイルス感染症対策のため、2020年4月より一部機能を保健福祉センターへ一時移設しているが（現在は1）と3）のみを実施）、来所者からは再開を望む声が上がっている。

設置スタッフ：心の相談員 1名

看護職スタッフ 1名（看護師、保健師が日替わりで勤務）

消費生活相談員 1名が常駐

③ 利用状況

利用者数：年間約 5,000 人が本駅を利用している。なお、2020 年度の利用者数は 2020 年 11 月 1 日時点で計 544 人。

単位：人

年度	男性（人）	女性（人）	合計（人）	月平均人数
2017	1,630	3,072	4,702	391.8
2018	1,762	3,367	5,129	427.4
2019	1,718	2,575	4,293	357.8

健康相談件数：年間の健康相談件数は約 300～400 件。高齢者、特に 70 歳代の利用が多い。相談内容の内訳別では、2018 年度から心に関する相談件数が全体の約 4 割と最も多く、心の相談員を常駐させて対応している。

単位：人

年度	男性（人）	女性（人）	合計（人）	月平均人数
2017	155	202	357	29.8
2018	134	203	337	28.1
2019	117	155	272	22.7

単位：人

年度	39歳以下	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	合計
2017	16	40	75	82	79	65	357
2018	53	50	39	60	94	41	337
2019	40	22	23	51	93	43	272

単位：件

年度	健康関係	介護関係	心の関係	医療関係	食事関係	苦情関係	生活・経済	その他	合計
2017	156	26	131	23	2	2	59	44	443
2018	111	19	142	42	2	5	40	30	391
2019	86	18	117	37	0	1	27	35	321

健康度チェック・健康づくり体験者数：年間の体験者数は約 1,300～2,000 件。新型コロナウイルス感染症対策のため、現在は本機能を保健福祉センターに移設しているが、再開の声が多い。

単位：人

年度	脳年齢	物忘れ	体組成	エアロバイク	ジョーバ	骨密度	B C チェッカー	血圧測定	合計	月平均人数
2017	467	112	204	158	379	207	91	170	1,788	149.0
2018	472	96	202	185	174	362	174	119	1,784	148.7
2019	331	54	174	75	110	228	100	236	1,308	109.0

④ 設置の効果

- ・総合相談窓口として、市民からの多様な相談に専門職が対応するとともに、心の相談専用電話（ホットラインこころ）を設け相談対応することにより、当事者が相談しやすい形で SOS を発信でき、また、どこに相談したらよいか迷う当事者に対し一元的に話を聞き、関係機関と連携して解決を図る一歩になっている。
- ・健康体験や健康等に関する情報提供を行うことにより、市民が健康づくりを自分事として考え、行動変容につなげるきっかけとなっている。

(2) ネーブルみつけにおける事例

本駅は、全国でも4駅しか事例のない「健康の駅」と「まちの駅（※2）」のダブル認証施設となっている。旧ショッピングセンター跡地を市が買い取り、再開発を行った市民交流センター内に設置されている。

① 施設概要

施設名：ネーブルみつけ

設置場所：市民交流センター

② 運営概要

開設曜日・時間：月～土曜 AM9:00～PM9:30

日曜 AM9:00～PM6:00

実施内容：1）健康運動教室（科学的エビデンスに基づく運動メニューの提供）

3）悠々ライフ（中高年を対象にした生きがいづくり・仲間づくりの場）

3）みらい市場（地元農家が作った減農薬野菜等の販売）

4）喫茶コーナー（障がいを持つ人の就労体験の場としても活用）

③ 利用者

- ・健康運動教室は、2019年度に1,351人が参加した。

- ・悠々ライフは、2019年度に年間323事業を実施、延べ7,048人が参加した。

④ 設置の効果

- ・見附市立病院及びネーブルみつけ内に設置された「健康の駅」は「健幸スポーツの駅（※3）」も兼ねており、本駅に配置された健幸コンシェルジュ（※4）が運動やスポーツを始めたい市民からの相談を受け、相談者の身体の状態や興味・関心等に合致する運動やスポーツの紹介も行っており、市民の行動変容につなげるきっかけとなっている。

※2「まちの駅」とは（下記、「全国まちの駅連絡協議会」HP参照）

「まちの駅」とは、地域住民や来訪者に対して地域情報を提供し、人々の交流を促進するための拠点である。特定非営利活動法人地域交流センター内にある「全国まちの駅連絡協議会」が認定を行っており、現在、全国に1,676の駅が設置されている。

【まちの駅の機能】

- ① 誰でもトイレが利用でき、無料で休憩できる。
- ② 「まちの案内人」が、地域の情報について丁寧に教える。
- ③ 地域の人と来訪者の、出会いと交流のサポートをする。
- ④ まちの駅間でネットワーク化し、もてなしの地域づくりをめざす。

※3「健幸スポーツの駅」とは

地域において、健康無関心層を含めた住民が自分の健康状態（疾病の有無および病態）やニーズに応じて、スポーツによる健康づくりを開始したくなった時に、それに応じたプログラムを実施できる施設やプログラムを紹介する役割を持つ。認定のためには、1名以上の健幸コンシェルジュ（※4）が配置されていることが条件となる。なお、これらの駅は、産官学民が連携して健康寿命の延伸と健康格差の縮小を

目指す一般社団法人 Smart Wellness Community（以下、SWC）協議会が自治体と連携して認定を行っている。

※4 健幸コンシェルジュとは

「健幸スポーツの駅」に常駐し、住民に対し健康状態やニーズに応じて最適なスポーツプログラムを紹介する人材。保健師、管理栄養士、健康運動指導士、アスレチックトレーナー、理学療法士等の有資格者や各企業・団体からの推薦者などに対して SWC 協議会が認定を行う。

自治体	施設		コンシェル ジュ	年度
新潟県 見附市	5施設	ネーブルみつけ 見附市立病院 カープ見附いちのつぼ	総合体育館 今町ふれあいプラザ	20人 2017
静岡県 三島市	7施設	三島市立保健センター つばさ薬局 カープ三島大社町 静岡県総合健康センター	みしま健幸塾 三島市民体育館 カープ三島徳倉	24人 2017
山形県 中山町	3施設	NPO法人中山総合スポーツクラブ 中山町保健福祉センター 中山町中央公民館		10人 2018
静岡県 松崎町	10施設	蔵ら 松崎町商工会 海洋センター（B&G） ひまわり薬局松崎店 松崎町地域包括支援センター	松崎町社会福祉協議会 松崎町観光協会 高橋衛生堂まつざき薬局（閉店） 菜野サービスACE靴育部 松崎町健康福祉課	10人 2018
岩手県 遠野市	14施設	みやもりホール 老人憩いの家 遠野健康福祉の里 市民センター 遠野ショッピングセンター「とびあ」	宮守総合支所 各地区センター （綾織、小友、附馬牛、松崎、土淵、 青笹、上郷、達曽部）	28人 2018

表 3.3 健幸スポーツの駅の設定及び健幸コンシェルジュの配置一覧

各自治体は、口コミで周囲の人に健康情報を届けるインフルエンサー「健幸アンバサダー」の養成も行っている。健幸アンバサダーは、当該資格の認定を行う SWC 協議会が定期的（年4～6回程度）に配信する健康情報を拡散することで地域住民のヘルスリテラシーを向上させ、それにより健康づくりに関心を持った人が健幸スポーツの駅に配置された健幸コンシェルジュに相談に行き、その人の健康状態やニーズに応じた運動・スポーツ教室プログラムの紹介や提案を行うという仕組みを構築している。

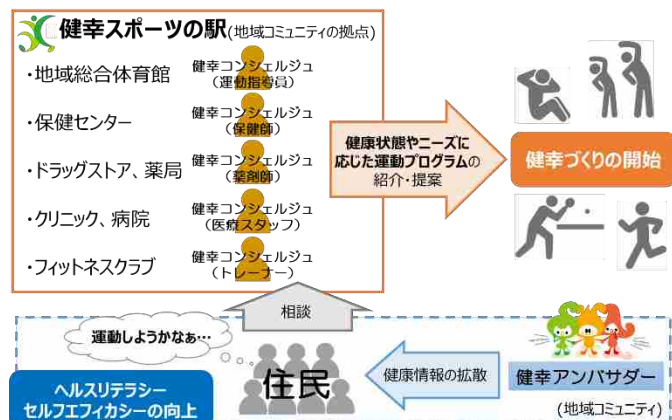


図 3.4 健幸スポーツの駅と健幸コンシェルジュ及びアンバサダー連絡のイメージ



回次	運動・スポーツ	教室・サークル名称	活動場所	活動日時・時間・料金等
● 新年度				
1~2	サークル英一丸 (骨盤調整体操)	ふみりあ	火曜日(第2・4)19:30~21:00 月 1,100円 一般(小学生以上)体を動かすことが苦手な方、背筋体操を動かさない方、体幹強化に効果的なエクササイズを指導する。	
2	リフレッシュヨガ (総合型地域スポーツクラブ)	武蔵野	火曜日(毎週)13:30~14:30 一般 月 2,200円(別途年会費・保険料) 呼吸と身体感覚に意識を向け、様々な状態にする。	
2	はじめるヨガ (総合型地域スポーツクラブ)	葛巻地区ふれんどセンター 他	水曜日(毎週)19:45~20:45 一般(中学生以上) 月 2,200円(別途年会費・保険料) 体をゆっくりにしながら整えて柔軟性をアップする。	
2	夜ヨガ (総合型地域スポーツクラブ)	ネーブルみづけ 他	本曜日(毎週)20:15~21:15 一般(中学生以上) 月 2,200円(別途年会費・保険料) 呼吸や体幹をつくることで代謝をあげて健康維持へ。	
2	元氣アップ教室 (総合型地域スポーツクラブ)	ネーブルみづけ	本曜日(第2・4)10:30~11:00 一般 月 1,200円(別途年会費・保険料) 元気なエクササイズを通して生活を送るための、ストレッチや筋トレ。	
2.3	ゆめみどり会呼吸体操 月曜 (総合型地域スポーツクラブ)	武蔵野	月曜日(14日~12月)19:00~19:45 一般(中学生以上) 月 1,000円(別途年会費・保険料) 呼吸を動かす、動きやすい、姿勢を作る、バランスを整え、若返りを促す。	
2.3	ゆめみどり会呼吸体操 金曜 (総合型地域スポーツクラブ)	ネーブルみづけ 他	金曜日(14日~12月)19:00~19:45 一般(中学生以上) 月 1,000円(別途年会費・保険料) 呼吸を動かす、動きやすい、姿勢を作る、バランスを整え、若返りを促す。	
2.8	肩こり腰痛予防教室 (総合型地域スポーツクラブ)	ネーブルみづけ 他	火曜日(毎週)10:30~11:30 一般 月 2,200円(別途年会費・保険料) 予防・改善の方法を学び、体を軽く楽にする教室。	
2.8	体感を整えるリフレッシュ体操 (総合型地域スポーツクラブ)	ネーブルみづけ	火曜日(毎週)13:30~14:30 一般 月 2,200円(別途年会費・保険料) ストレッチや軽運動で肩こりなどの身体の不調を整え、心身の健康を促す。	
2~3	アロマヨガ	ふみりあ	火曜日(第2・4)11:00~12:00 月 3,500円 一般 アロマの香りでゆったりヨガ。	
2~3	KULIKU メンズヨガサークル	ふみりあ	金曜日(第2・4)19:30~20:30 月 1,500円 一般 男性だけのヨガサークル。	
2~3	KULIKU 女子ヨガサークル	ふみりあ	火曜日(毎週)18:40~19:40 月 3,000円 一般 心と身体、呼吸に意識を向け、誰でもできるヨガ。	
2~3	ヨガサークル	ふみりあ	月曜日(5日)10:00~11:30 月 2,000円 一般 日々の疲れを取り、心身のゆがみを直し、リフレッシュする。	
2~3	高々健康カラオケ (豊ヶ丘)	ネーブルみづけ	火曜日(第2・4)13:30~14:30 無料 一般 「うたと音楽」に活用して、筋肉トレーニングやストレッチなどの効果を高める。	
2~3	真向道体操	ふみりあ	本曜日(第1・3・5)9:30~11:30 月 1,000円 一般 軽いストレッチ運動。	
2~4	養生気功	ふみりあ/葛巻地区ふれんどセンター 他	ふみりあ/金曜日(毎週)19:30~11:00 葛巻地区ふれんどセンター(本曜日)10:00~11:30 1日 500円 一般 気功・養生運動・ツボマサージ・リズムダンス。	
2~4	らくちん太極拳	ふみりあ	本曜日(毎週)13:30~15:00 月 2,000円 一般 太極拳・気功・養生運動・ツボマサージ・リズムダンス。	
2~4	リフレッシュ太極拳	ふみりあ	月曜日(5日)19:30~21:00 月 2,000円 一般 (中学生以上) 太極拳・気功・養生運動・ツボマサージ・リズムダンスなど。	

図 3.5 運動・スポーツ教室プログラムの一例

3-2-2 静岡県三島市における取り組み

三島市は 2020 年、三島商工会議所及び SWC 協議会と「健康まちづくり連携協定」を締結し、地域や SWC 協議会加盟企業と連携して市民の健康づくりに取り組んでいる。

三島市は SWC 協議会加盟企業のタニタヘルスリンクが提供する運動・栄養プログラムを導入して健康づくりインセンティブ事業「みしまタニタ健康くらぶ」を実施し、現在、約 2,000 人の市民が取り組んでいる。

三島商工会議所は、本事業に参加する会員企業への健康計測機器の貸し出しや企業対抗の歩数イベントの企画、健康経営優良法人認定取得に向けたサポート等を行っている。

また、SWC 協議会加盟企業である白寿生科学研究所は、三島田町駅構内に出店する「ハクジュプラザ」内で本事業の参加者向け説明会やポイント交換等を行い、市民の健康づくりを後押ししている。今後は連携を強化し、店内での運動教室の実施や健康アンバサダーを養成するための講座の開催等も予定している。

① 運営概要

開設曜日・時間：月～金曜 PM1:30～PM5:50

実施内容：1) 体組成計の設置

2) 参加者向け説明会の実施 (年に数回を予定)

② 設置の効果

- ・「ハクジュプラザ」内での参加者向け説明会の実施とスタッフによる参加勧奨により、約 30 名が「みしまタニタ健康くらぶ」に入会した。
- ・駅構内に健康づくり拠点を設置できたことにより利便性の向上につながった。

3-2-3 愛知県大府市における取り組み

大府市では、平成 30 年 4 月より、健康とまちの賑わい創出を目的とした「KURUTO おおぶ」を JR 大府駅内に開設・運営している。

本施設は、健康カフェとしての位置づけにあるタニタカフェを中核とした施設であり、その他に健康サービスの提供、健康器具や観光物産の販売、さらに観光案内サービスを行っている。

以下では、KURUTO おおぶ運営主体へのヒアリング結果を掲載する。

(1) 事業実施に至った背景

- ・市長のマニフェストに「大府駅の空きスペースの活用検討」の掲載があったことから、施設設置の検討を行った。
- ・「駅周辺のにぎわいづくり」という市民ニーズに対応するため、飲食、観光推進、健康増進など様々な機能を有する複合施設を設置し、市内外から多くの来訪者を呼び込むことを目指していた。

(2) 施設概要

- ・施設面積：151.8 m²
- ・事業主体：大府市健康にぎわいステーション推進協議会
- ・運営形態：指定管理者制度

(3) 収支状況（令和元年度実績）

- ・イニシャルコスト（整備時の費用、その負担者）
 - 設計委託費：約 7 百万円
 - 改修工事費：約 49 百万円
 - 備品購入費：約 9 百万円
 - （市負担、国庫補助：約 32 百万円）
- ・運営費
 - 収入：約 6,400 万円
 - 支出：約 6,300 万円（主にカフェ人件費：約 20 百万円、カフェ材料費：約 17 百万円、管理物販人件費：約 10 百万円）

(4) 効果

長期間未利用だった J R 大府駅構内の空きスペースに飲食、観光案内、健康づくり機能を備えた公共施設を設置したことは、駅周辺のにぎわいづくりの一つの契機となったと考えられる。

今後は、地域の事業者等との連携により一体的な集客促進効果を期待する。

■ 主な機能




kuruttoおおふ タニタカフェ

 観光案内所

 特産品等販売

 健康認定コーナー

【テーマ別の主な機能】

- 健康関連** 健康認定コーナーの運営、健康相談会の開催、健康づくり講座・イベント・セミナー等の開催、健康づくりに関する情報の提供・提供
- 飲食関係** タニタカフェ（コウボ店）の運営
- 観光案内** 観光案内所の運営、大府市の観光情報の提供・提供、観光案内書籍（ガイド等）
- 特産品等** 特産品・農産物等の販売等

■ 管理及び運営

- 株式会社による管理及び運営を行います。
- 指定管理者** 大府市健康にぎわいステーション推進協議会
- 【構成メンバー】 有限会社ステーション・イン・大府、erisawa、有限会社徳島の山田等、知多メディアネットワーク株式会社、株式会社東洋利勝、有限会社中村広紙、フリップイン福祉株式会社、株式会社みかど、以上（計8名）
- 指定期間** 平成30年4月27日から平成33年3月31日まで

<事務上の取組等とは？>

地方自治体の所管する公共施設について、業務、運営を民間事業者を委託する法人やその他の団体に、委託することができる制度。公共施設の管理、運営に民間のノウハウを導入することで、低価格の運営を実現を目指すもの。

<本チラシに関する問合せ先>

- 大府市 産業振興部商工振興課**
 住所：〒474-8701 大府市中央五丁目70番地 / 電話：0562（45）6227
 FAX：0562（47）7320 / メール：shokusan@city.dofu.lg.jp
- <KURUTTO おおふの問合せ先>**
 電話：0562（51）4329 / FAX：0562（51）6265

（2019.04.27 時点）

kuruttoおおふ

大府市健康にぎわいステーション

「大府市健康にぎわいステーション（愛称：KURUTTO おおふ）」は、JR大府駅構内（1階）にある健康と観光をテーマとした施設です。

■ 施設の目的

市民の健康増進を図るとともに、本市の観光情報の提供、特産品等の販売取組等により地域の活性化に寄与することを目的とした施設です。

■ 施設の概要

- 名称** 大府市健康にぎわいステーション
- 愛称** KURUTTO おおふ（ヨミカタルトオオフ、公募により決定、KURUTTO に来ると何かにいってかあふ）という思いを込めて）
- 所在地** 大府市中央五丁目278番地（JR大府駅構内1階）
- 開設年月日** 平成30年4月27日
- 設備** 飲食・観光案内・特産品等販売台所1室、事務室1室、会議室1室、多目的ホール1カ所
- 営業時間** 午前10時から午後6時まで（ただし、業務提供は午前7時から午後8時まで）
- 休日** 毎月1日（ただし、この日が土曜日・日曜日・祝日の場合は、翌平日）
 12月28日から翌年1月3日まで



▲ 左：施設の外観 / 右：カフェスペース

（2019.04.27 時点）

3-3 健幸ステーションの機能定義

飯塚市の上位計画や他都市の類似施設の事例を踏まえ、本市の健幸ステーションの機能定義を以下のように設定する。また、本事業では、官民連携による同ステーションの事業性の確保と地域交流センターそのものの運営効率性を同時に実現できる事業モデルの構築を目指す。

■本市における健幸ステーションの位置づけ

- ・健康増進に係る多面的機能を有する健康拠点
- ・地区の拠点として、人々が集う機会を創出し、まちの賑わい創出にも貢献
- ・人々が集うことで、地域コミュニティの醸成に貢献
- ・高齢者の就労機会の拡大

■健康ステーションの事例からみた機能

- ・健康度チェック・健幸体験づくり（→運動教室等）
- ・健康に関する情報発信
- ・交流・仲間づくり
- ・喫茶コーナー（就労機会の確保も併用）
- ・健康カフェや健康商品の販売 等

サービス機能	想定されるサービス例
・健康増進に貢献する飲食機能 ・コミュニティを醸成するカフェ ・健康意識・活動の伝導 等	健幸カフェ ・体にやさしい食べ物や飲み物を提供するカフェ ・カフェで健康イベントを通じて健康意識の醸成が図られる ・「健幸調理教室」の開催により、体にやさしい食べ物の調理方法を、一般市民向け、飲食事業者向けに普及啓発することで、市民の健康長寿の裾野を広げる。
・日常的な健康度チェック ・運動体験 ・コミュニティの醸成	スポーツジム・運動教室 ・スポーツジムや運動教室の開設で市民の運動習慣を定着 ・健康教室の開催
・健康取得機会の付与 ・収益性の確保	健康商品販売 ・健康器具や健康食品等の販売等、健康に貢献する物販機能
・市の健康施策との連携	健幸ポイント事業 ・市が進める健幸ポイント事業と連携し、健幸ポイントの付与や商品交換等ポイント事業の支援機能、及び参加者勧誘機能

施設要件①：市民の健康増進に貢献する施設

施設要件②：地域の集客拠点として、まちの賑わい創出に貢献する施設

施設要件③：先導的な官民連携事業モデルにより地域交流センターの運営効率化を実現

4. 飯塚市における地域交流センターの 運営実態調査と重点整備施設の抽出

4. 飯塚市における地域交流センターの運営実態調査と重点整備施設の抽出

4-1 地域交流センターの概要

飯塚市には全 12 か所の交流センターが整備されており、「地域づくり」としての安全・安心なまちづくりや地域福祉などの役割に加え、「学びの場」としての地域住民の生涯学習の場や文化活動に寄与する役割を持った施設として位置付けられている^{4.1)}。

元々飯塚市の地域交流センターは地区公民館であったが、地区公民館は社会教育法第 23 条により営利活動での使用に制限がある^{注 4.1)}。そのため、公民館では民間による活動をメインとした運用ができず収入は市民のサークル活動等の利用料に依存せざるを得ない。一方で、公民館の支出は人件費や光熱費、委託料など多岐にわたり、大幅な赤字が続いていた^{注 4.2)}。

そこで飯塚市では、公民館の立地条件やスペースの貸し出しを引き換えに、実施されるサークル等のイベントを一部民間事業者で実施させて市の施設の有効活用と経営の改善を図るため、平成 30 年に公民館を社会教育法で制限されない地区交流センターと改組し、民間事業者による営利活動を積極的に受け入れる方針へと転換した。この結果、12 箇所全ての地区交流センターにおいて民間事業者を主体とする事業やイベントが可能となった。

・12 箇所の地域交流センターについて

下記に、飯塚市にある全交流センターの一覧を示す。

表 4.1 地区交流センター一覧

交流センター	住所	開館時間	休館日	建築延床面積(m ²)	敷地面積(m ²)	備考
① 飯塚市二瀬交流センター	飯塚市川津675-1	午前9時から 午後10時	第1・第3日曜日 年末年始 (12月29日から1月3日)	1,066	3,416	R4年移転（建替）
② 飯塚市幸袋交流センター	飯塚市幸袋50			902	2,709	R6年移転（建替）
③ 飯塚市鎮西交流センター	飯塚市大日寺141			1,236	482	小中一貫校鎮西校内
④ 飯塚市菰田交流センター	飯塚市菰田東1-7-45			842	1,933	R2年改修
⑤ 飯塚市立岩交流センター	飯塚市新立岩8-13			1,137	2,268	R元年移転
⑥ 飯塚市飯塚東交流センター	飯塚市下三緒57-86			854	1,872	R元年改修
⑦ 飯塚市飯塚片島交流センター	飯塚市本町20-17			934	3,500	
⑧ 飯塚市鯉田交流センター	飯塚市鯉田1373			894	1,677	R3年移転（建替）
⑨ 飯塚市穂波交流センター	飯塚市秋松408			1,795	6,554	R2年改修
⑩ 飯塚市筑穂交流センター	飯塚市長尾1340			2,304	4,345	
⑪ 飯塚市庄内交流センター (面積下段は別館)	飯塚市有安830-3		第2・第4日曜日 年末年始 (12月29日から1月3日)	2,218	6,814	R4年移転（ハモニ）
⑫ 飯塚市鯉田交流センター (面積下段は別館)	飯塚市鹿毛馬1667-2			553	1,060	
				937	2,317	小中一貫校鯉田校内
				996	1,878	

4.1) 飯塚市ホームページ： <https://www.city.iizuka.lg.jp/machizukuri/kurashi/shimin/kouryuceneter/kouryuceneter.html>、2020 年 12 月 11 日参照

注 4.1 文部科学省の事務連絡（平成 30 年 12 月 21 日「社会教育法第 23 条第 1 項の解釈の周知について（依頼）社」）によると、「法第 23 条第 1 項第 1 号では、公民館が『もつぱら営利を目的として事業を行い、特定の営利事務に公民館の名称を利用させその他営利事業を援助すること』を禁止している。本規定の趣旨は、公民館が、法第 20 条に掲げる目的を没却して専ら営利のみを追求することや、特定の営利事業に対して、使用回数や使用時間、使用料等に関して優遇するなど特に便宜を図り、それによって当該事業に利益を与えることを禁止するもので、公民館が営利事業に関わることを全面的に禁止するものではない。」とあり、営利事業を主目的としなければ営利目的での使用も可能であることが分かる。

注 4.2 平成 27 年度・29 年度の指定管理料算出表より

・候補 12 施設の利用実態と施設更新計画、後背圏人口等の地区特性について

本章においては、資料や現地調査から得られたデータを用いて、上記の 12 施設についてそれぞれの利用施設の利用可能諸室における利用率、施設更新計画、施設がある地域の後背圏人口といった地域の特性を示す。なお各施設の利用率については、2020 年 10 月の 1 ヶ月の利用状況を基に算出した。

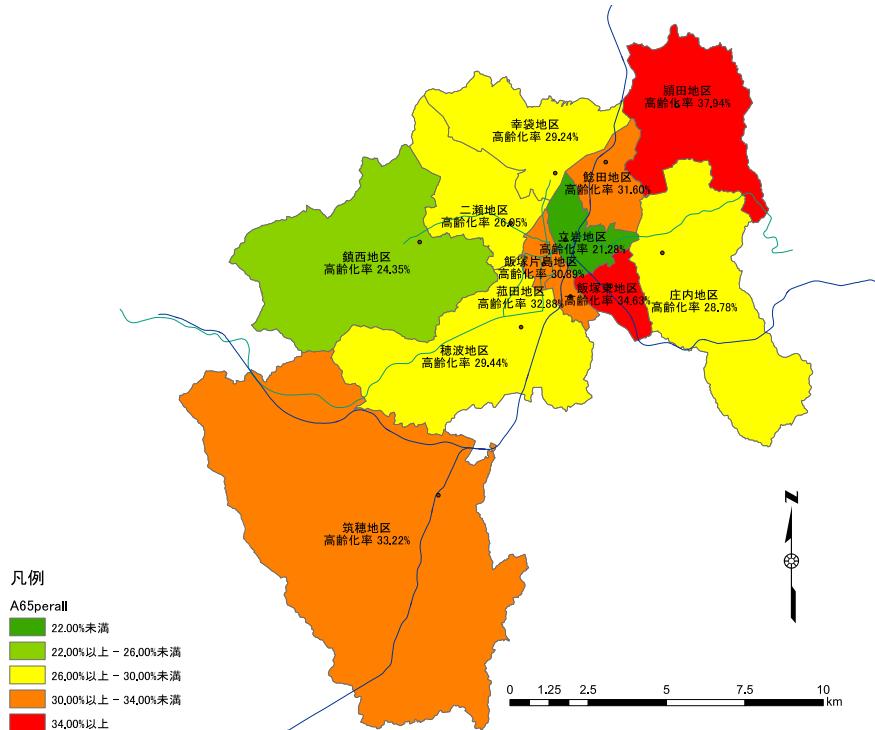


図 4.1 飯塚市の 12 地区と高齢化率

表 4.2 飯塚市の人口と世帯数、男女比

地区名	人口	男性	女性	世帯数	15歳未満	15歳以上65歳未満	65歳以上	75歳以上	高齢化率 (65歳以上)
飯塚市全体	129,146	61,249	67,897	54,732	16,338	74,512	37,210	18,511	28.81%

図 4.2 飯塚市人口ピラミッド



4-1-1 二瀬交流センター

A. 諸室の平面図と利用率

二瀬交流センターには、調理実習室をはじめとして7室ある。図書室がある点が特徴である。

図 4.3 二瀬交流センター 1 階平面図

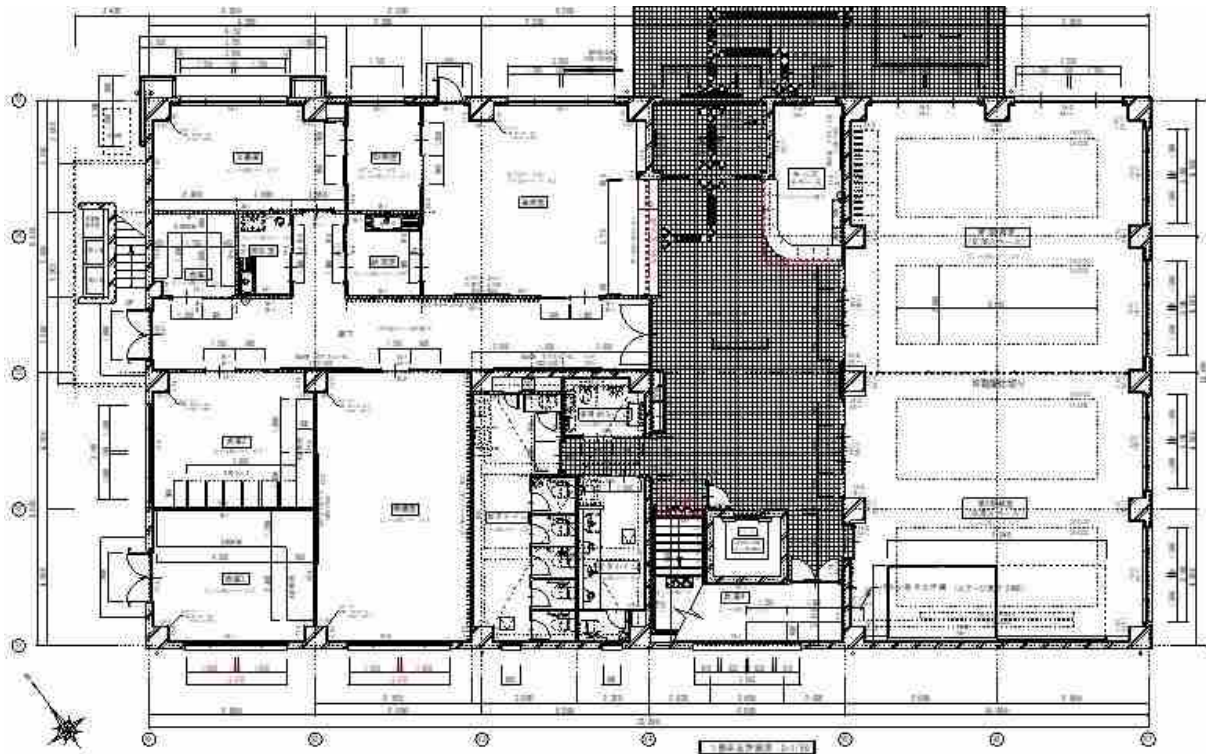
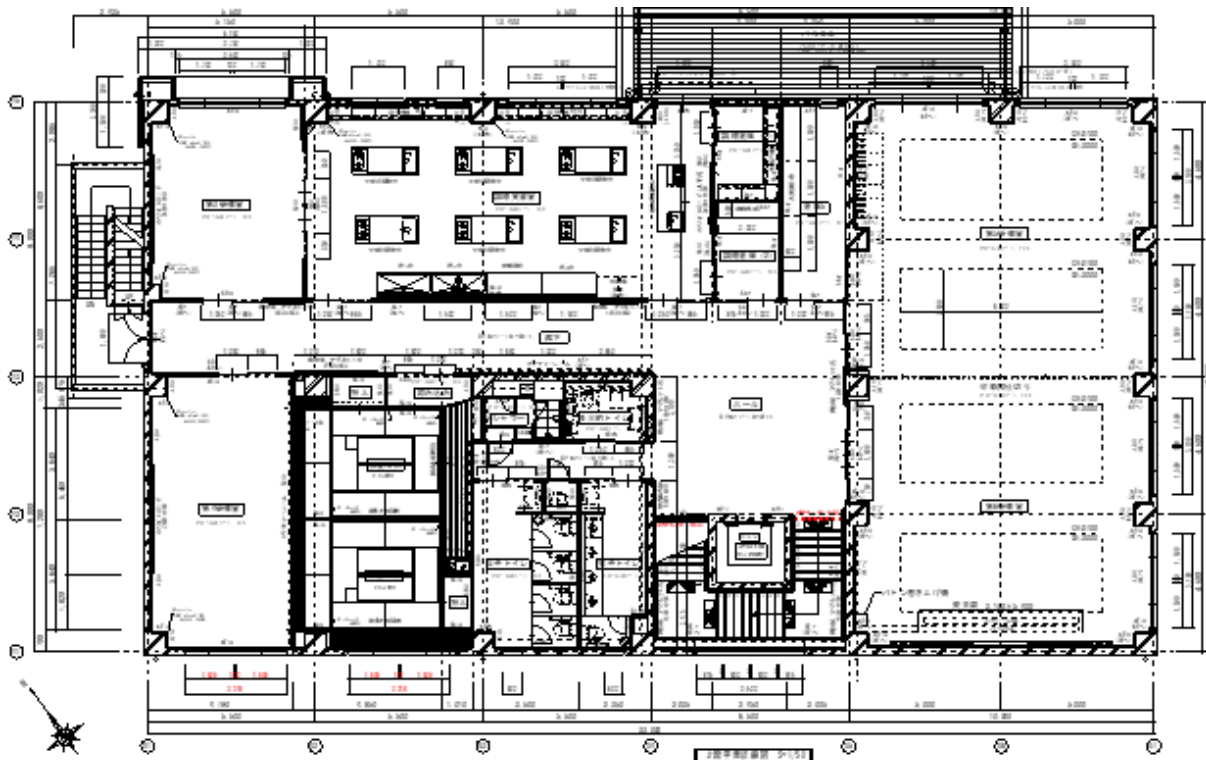


図 4.4 二瀬交流センター 2 階平面図



各室の利用率は下記の通りである。大研修室の利用が多く、午前中は 80%、午後は 57% の利用率となる。夜間 19 時台の利用も目立ち、40%を占めている。

表 4.3 二瀬交流センター 各室利用率

設備名称	900	930	1000	1030	1100	1130	1200	1230	1300	1330	1400	1430	1500	1530	1600	1630	1700	1730	1800	1830	1900	1930	2000	2030	2100	2130	2200	2230
児童室	3.3	3.3	26.7	26.7	26.7	23.3	23.3	3.3	16.7	13.3	23.3	23.3	26.7	3.3	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
図書室	3.3	6.7	10.0	10.0	10.0	10.0	6.7	3.3	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大研修室	26.7	26.7	76.7	76.7	80.0	76.7	76.7	13.3	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	13.3	3.3	3.3	6.7	3.3	26.7	26.7	40.0	40.0	40.0	16.7	16.7	3.3	0.0	0.0
第1研修室	3.3	3.3	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	3.3	6.7	3.3	3.3	3.3	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
第2研修室	10.0	10.0	36.7	36.7	36.7	36.7	36.7	10.0	20.0	13.3	13.3	13.3	13.3	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	3.3	3.3	13.3	13.3	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0
調理実習室	16.7	16.7	36.7	36.7	36.7	36.7	36.7	26.7	33.3	20.0	20.0	16.7	6.7	3.3	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
和室	10.0	16.7	36.7	36.7	36.7	36.7	30.0	20.0	33.3	33.3	53.3	50.0	40.0	26.7	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

B. 施設更新計画

二瀬交流センターは 1971 年に建設されているため建物が老朽化していることもあり、2022 年 4 月に国道を挟んだ給食センター跡地に建て替え予定である。現状の利用状況においてはサークルがメインであるため、更新後の交流センターはサークルが入るような形で新しい建物を計画しており、部屋及び駐車場も増え、調理室も備えるが飲食機能などが入る予定はない。また、避難所にもなる計画である。

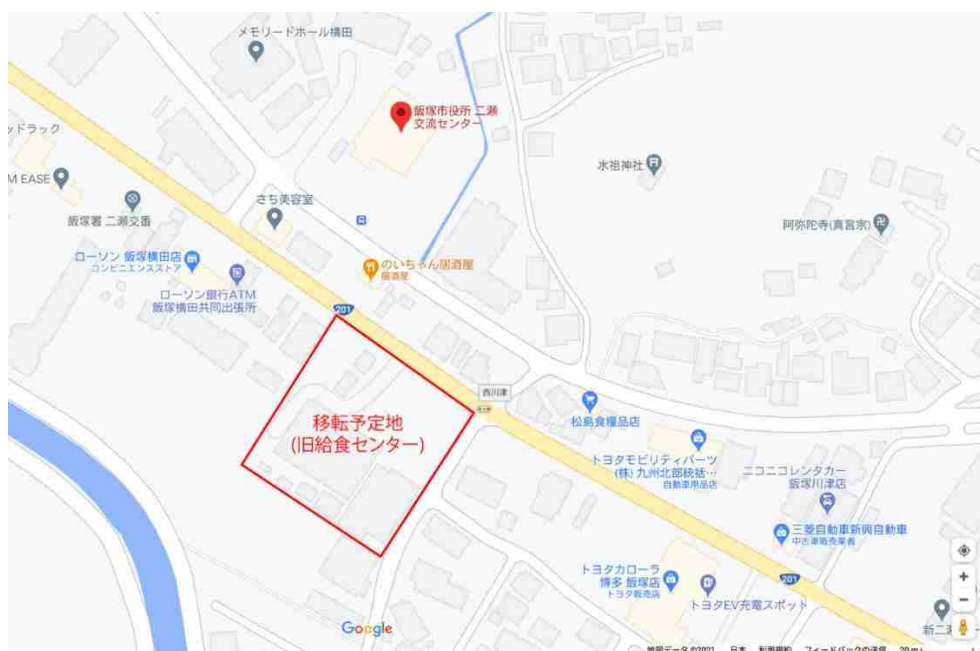


図 4.5 二瀬交流センター建て替え予定地

C. 後背圏人口等の地区特性について

二瀬地区の利用者は大部分が高齢者であり、子育て世帯の利用が少なくなっている。サークルが大部分を占め、その他まちづくり協議会や民生委員などの協議会が利用しているため、市の関係団体としての利用料の減免措置が多く適用される。二瀬地区の他、川津や横田からの利用者が多い。また利用者は車利用が多く、規模の大きな会議やサークルでの利用が重なると、40 数台の駐車場が一杯になることもあるため、近隣の施設などと相談し駐車場所を確保している状況である。二瀬交流センタ

ーは西鉄バス、コミュニティバスの停留所にもなっている（コミュニティバスは市内循環）。利用者は車持っている人は遠くからくるが、大体は二瀬地区からの利用者である。

立地としては近くに小学校や中学校がない、あるいは遠いため子供や子育て世代の利用が少なくなっていると考えられる。下図人口ピラミッドからもわかるように、20 歳台前半の男性が突出して多く、九州工業大学の学生と推測される。そのため、九州工業大学と連携可能かどうかは二瀬地区の今後の課題である。

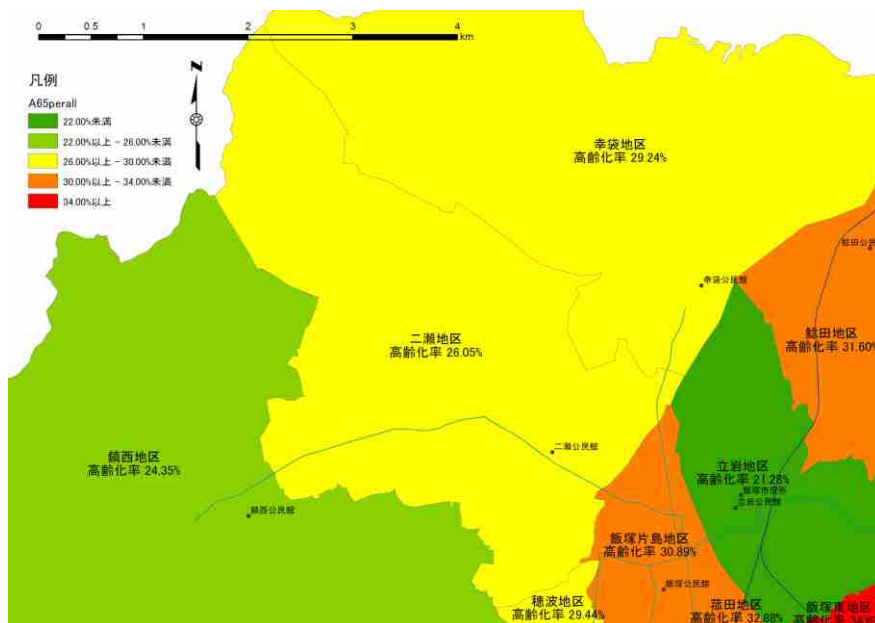


図 4.6 二瀬地区の位置と高齢化率

表 4.4 二瀬地区の人口と世帯数、男女比

地区名	人口	男性	女性	世帯数	15歳未満	15歳以上65歳未満	65歳以上	75歳以上	高齢化率 (65歳以上)
二瀬地区	19,938	10,044	9,894	9,690	2,516	11,988	5,193	2,521	26.05%



図 4.7 二瀬地区人口ピラミッド

4-1-2 幸袋交流センター

A. 諸室の平面図と利用率

幸袋交流センターには、調理実習室をはじめとして7室ある。児童室がある点が特徴。

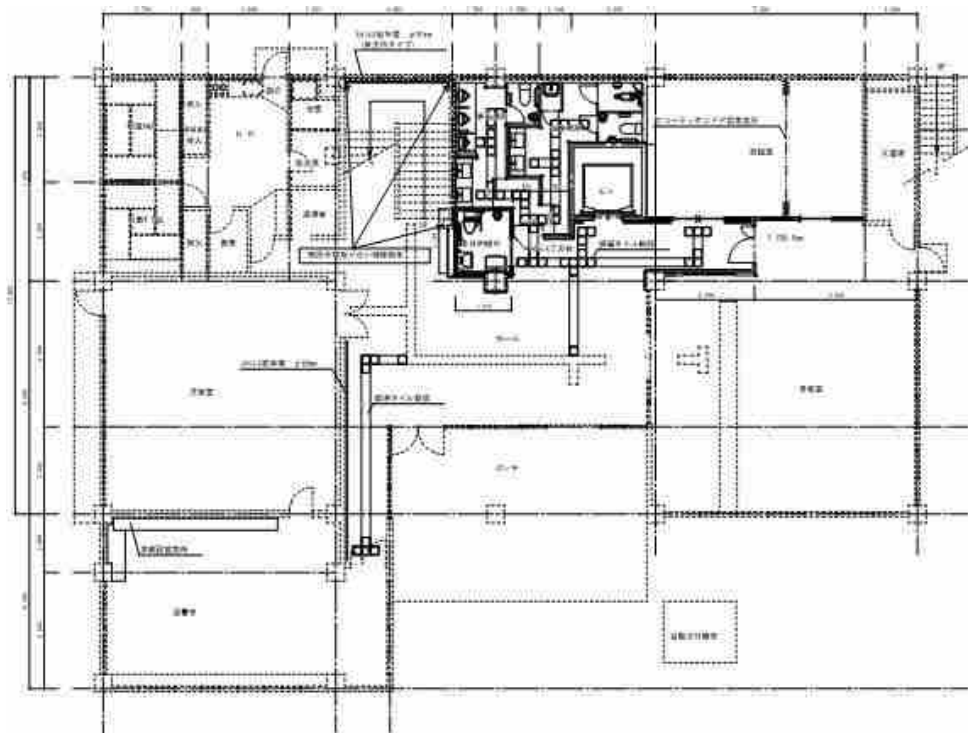


図 4.8 幸袋交流センター 1 階平面図

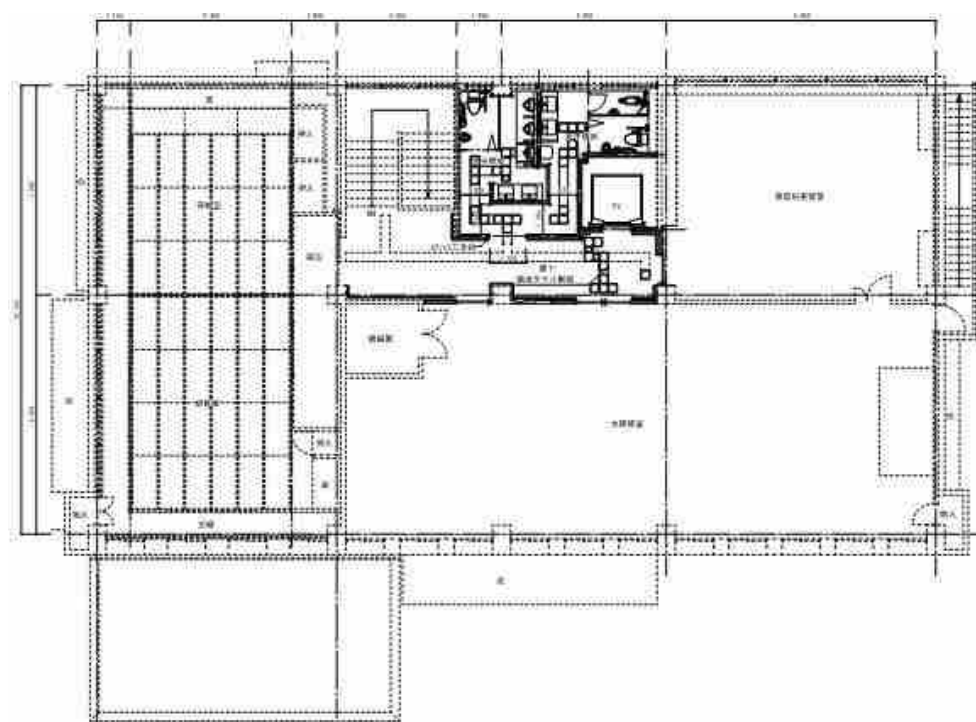


図 4.9 幸袋交流センター 2 階平面図

各室の利用率は下記の通りである。児童室の利用が全時間帯を通じて多く、午前中から 15 時台まで 50%前後となっている。また大研修室も午前中は 40%の利用率である。一方で和室は午後 2 時 -3 時台の利用が多く 40-50%となるが、それ以外の時間帯は多くない。

表 4.5 幸袋交流センター 各室利用率

設備名称	900	930	1000	1030	1100	1130	1200	1230	1300	1330	1400	1430	1500	1530	1600	1630	1700	1730	1800	1830	1900	1930	2000	2030	2100	2130	2200	2230
研修室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.333	3.333	3.333	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
児童室	40	40	46.67	46.67	46.67	46.67	46.67	40	46.67	43.33	46.67	50	46.67	40	36.67	33.33	33.33	33.33	33.33	36.67	36.67	36.67	36.67	36.67	36.67	33.33	33.33	0
図書室	0	0	6.667	6.667	6.667	3.333	3.333	0	13.33	16.67	20	20	20	3.333	0	0	0	0	3.333	3.333	3.333	0	0	0	0	0	0	0
大研修室	6.667	20	40	40	40	40	30	10	26.67	20	23.33	23.33	26.67	16.67	20	6.667	30	26.67	26.67	0	16.67	16.67	16.67	16.67	16.67	0	0	0
調理実習室	10	13.33	13.33	13.33	13.33	13.33	13.33	13.33	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
和室1号	0	6.667	13.33	13.33	13.33	13.33	13.33	6.667	6.667	33.33	43.33	43.33	43.33	33.33	10	3.333	3.333	0	0	0	13.33	13.33	13.33	0	0	0	0	0
和室2号	0	0	3.333	3.333	3.333	3.333	3.333	0	6.667	33.33	46.67	46.67	46.67	46.67	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

B. 施設更新計画

幸袋交流センターは 1972 年に現施設が完成しており、2005 年にエレベーター等改修工事が実施された。現在、二瀬交流センターと同様に移転建て替え計画されている。時期は 2024 年を予定している。

C. 後背圏人口等の地区特性について

幸袋地区の高齢化率は 29.24%となっており、飯塚市の平均に近い。男性と女性の人数がほぼ同数であり、年齢構成も飯塚市全体とほぼ同様となっている。

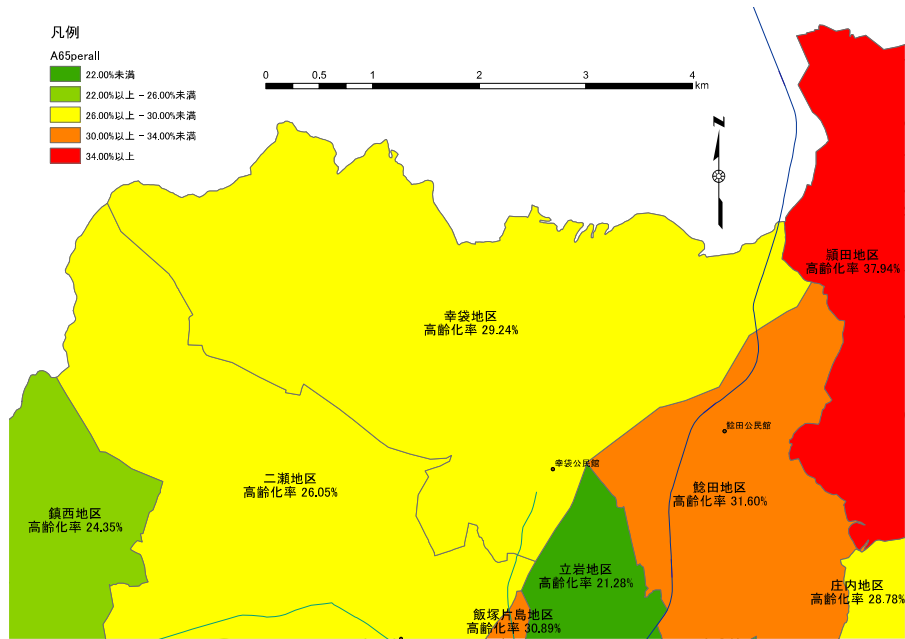


図 4.10 幸袋地区の位置と高齢化率

表 4.6 幸袋地区の人口と世帯数、男女比

地区名	人口	男性	女性	世帯数	15歳未満	15歳以上65歳未満	65歳以上	75歳以上	高齢化率 (65歳以上)
二瀬地区	19,938	10,044	9,894	9,690	2,516	11,988	5,193	2,521	26.05%

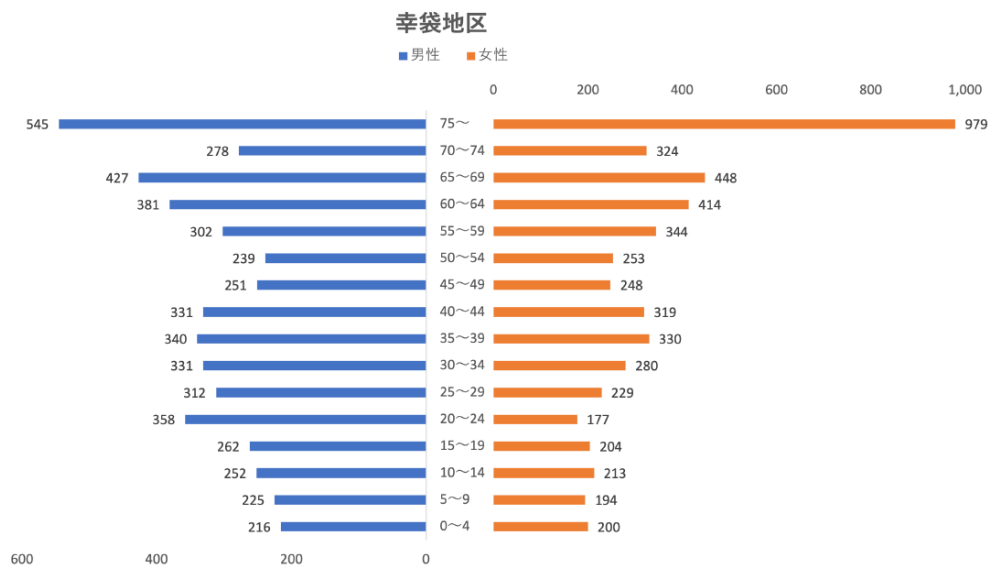


図 4.11 幸袋地区人口ピラミッド

4-1-3 鎮西交流センター

A. 諸室の平面図と利用率

鎮西交流センターには、調理実習室をはじめとして8室ある。音楽研修室が特徴である。

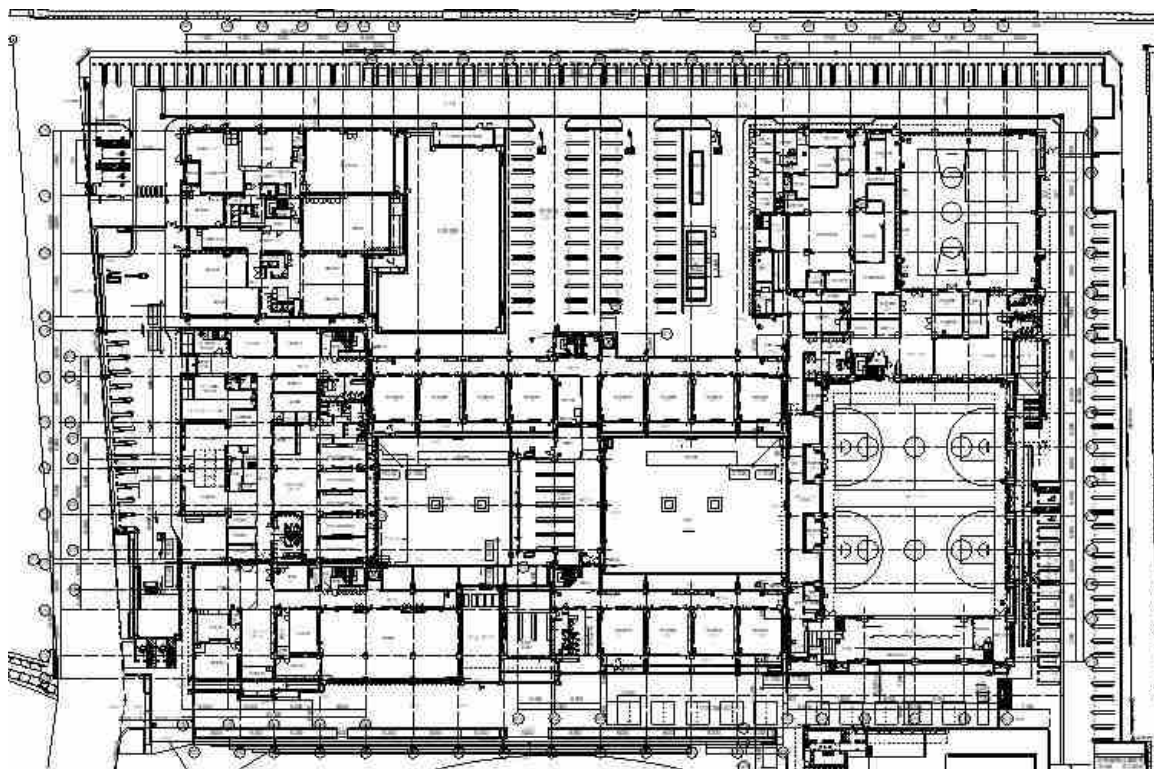


図 4.12 鎮西交流センター 1 階平面図

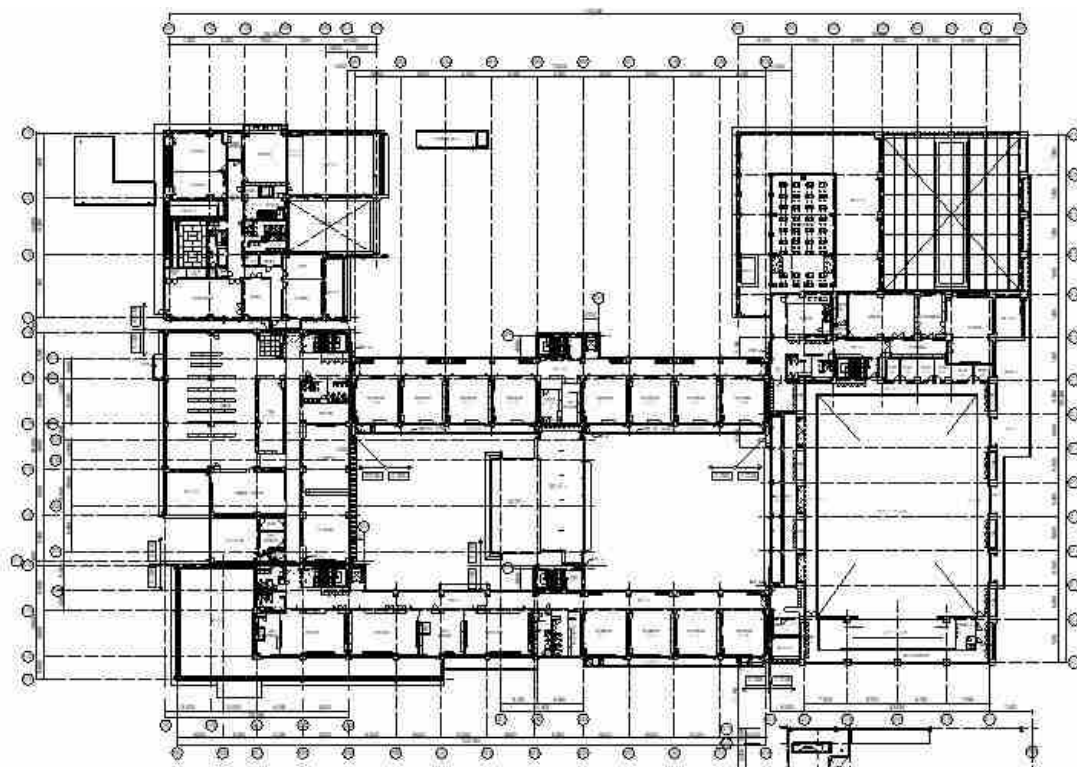


図 4.13 鎮西交流センター 2 階平面図

各室の利用率は下記の通りである。大研修室の利用が全時間帯を通じて多く、午前中は50%から60%となっている。また研修室1-3の中では研修室1で利用平均が高くなっている。音楽研修室は17-19時台の利用が多くなっており、20-40%を占める。また、調理室と和室1、和室2は午前中の利用が見られないものの、18時代から21時代にかけて少数の利用が見られている。

表 4.7 鎮西交流センター 各室利用率

設備名称	900	930	1000	1030	1100	1130	1200	1230	1300	1330	1400	1430	1500	1530	1600	1630	1700	1730	1800	1830	1900	1930	2000	2030	2100	2130	2200	2230
音楽研修室	0	0	10	10	10	10	10	0	0	20	20	20	20	20	0	13.3	13.3	26.7	26.7	40	36.7	36.7	20	20	20	0	0	0
研修室1	6.67	10	23.3	23.3	23.3	23.3	30	16.7	33.3	26.7	30	30	43.3	26.7	40	33.3	33.3	26.7	30	30	33.3	20	20	6.67	6.67	3.33	3.33	0
研修室2	6.67	10	30	30	33.3	33.3	30	16.7	36.7	20	23.3	23.3	26.7	6.67	6.67	6.67	6.67	0	6.67	6.67	6.67	3.33	3.33	3.33	3.33	3.33	3.33	0
研修室3	16.7	20	30	30	30	26.7	26.7	10	10	10	10	10	6.67	3.33	3.33	0	0	0	0	6.67	10	10	6.67	3.33	3.33	3.33	0	0
大研修室	20	20	46.7	46.7	46.7	46.7	56.7	16.7	33.3	26.7	43.3	40	40	40	40	26.7	30	26.7	26.7	10	30	30	30	26.7	23.3	23.3	20	0
調理室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.33	3.33	3.33	3.33	3.33	3.33	3.33	0	0
和室1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6.67	6.67	6.67	6.67	6.67	6.67	6.67	0	0
和室2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6.67	6.67	6.67	6.67	6.67	6.67	6.67	0	0

B. 施設更新計画

2017年に地上2階建ての新施設が建設され、2018年4月1日より共用開始されたため、鎮西交流センターについては現在改修や移転の計画はない。スロープはあるが多目的トイレやエレベーターがなく、バリアフリー上高齢者の利用に課題もある。

C. 後背圏人口等の地区特性について

鎮西地区は、高齢化率が24.35%となっており立岩地区について飯塚市内で高齢化率が低くなっている。男女とも0-4歳と35歳-44歳の人数が多いことから、子供が生まれたばかりの世代が多いことが推測される。

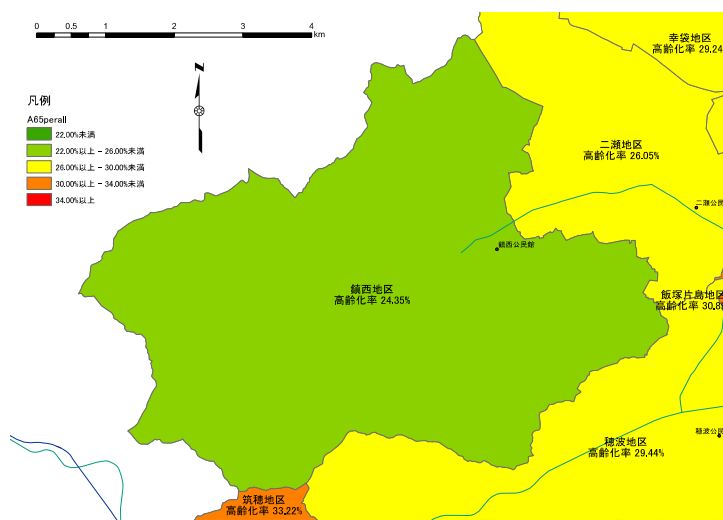


図 4.14 鎮西地区の位置と高齢化率

表 4.8 鎮西地区の人口と世帯数、男女比

地区名	人口	男性	女性	世帯数	15歳未満	15歳以上65歳未満	65歳以上	75歳以上	高齢化率(65歳以上)
鎮西地区	11,948	5,592	6,356	4,775	1,657	7,272	2,909	1,350	24.35%

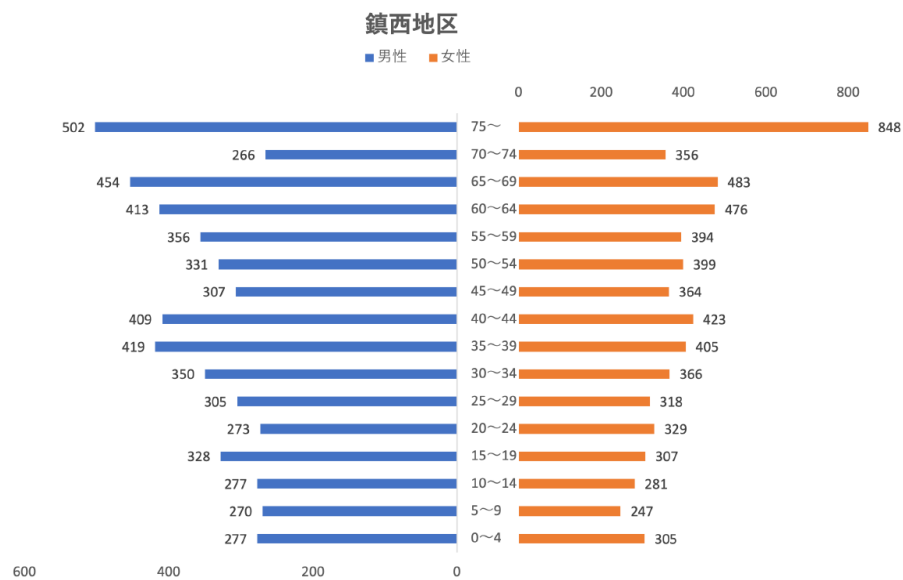


図 4.15 鎮西地区人口ピラミッド

4-1-4 菰田交流センター

A. 諸室の平面図と利用率

菰田交流センターには、大研修室をはじめとして7室ある。多目的室が特徴である。



図 4.16 菰田交流センター 1階及び2階平面図

各室の利用率は下記の通りである。大研修室が最も利用率が高く、午前から午後にかけて 40・50%の利用が見られている他、19・20 時台にも一定の利用がある。その他、第 1 研修室、和室 2 号も利用率は下がるものの同様の利用傾向が見られる。調理実習室、和室 1 号は特定の時間帯を除き、ほかは全く利用が見られない。

表 4.9 菰田交流センター 各室利用率

設備名称	900	930	1000	1030	1100	1130	1200	1230	1300	1330	1400	1430	1500	1530	1600	1630	1700	1730	1800	1830	1900	1930	2000	2030	2100	2130	2200	2230
多目的室	0	0	23.3	30	30	30	23.3	0	10	10	10	10	10	0	0	0	0	0	0	0	10	10	10	10	10	0	0	0
大研修室	6.67	6.67	40	40	40	40	40	0	0	43.3	43.3	43.3	43.3	43.3	0	0	13.3	13.3	13.3	13.3	20	26.7	26.7	23.3	20	16.7	0	0
第1研修室	0	0	0	0	0	0	0	0	20	30	30	16.7	16.7	10	0	0	0	0	0	0	16.7	26.7	26.7	10	6.67	6.67	0	0
第2研修室	0	0	6.67	6.67	6.67	6.67	10	3.33	6.67	3.33	3.33	3.33	10	10	10	6.67	6.67	0	0	0	3.33	3.33	3.33	3.33	3.33	0	0	0
調理実習室	0	0	6.67	6.67	6.67	6.67	6.67	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
和室1号	0	0	0	0	0	0	0	0	3.33	3.33	3.33	3.33	3.33	3.33	3.33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
和室2号	0	0	23.3	23.3	23.3	23.3	23.3	0	10	10	10	10	10	0	0	0	0	0	0	0	6.67	6.67	6.67	6.67	6.67	0	0	0

B. 施設更新計画

菰田交流センターは、1973 年に現施設が建設された。その後エレベーターの改修工事(時期不明)に加え、2020 年に大規模改造工事を実施した。現在その他移転や改修の実施予定はない。スロープと多目的トイレは設置されており、バリアフリー化は完了している。

C. 後背圏人口等の地区特性について

立岩地区に隣接し中心部に近い菰田地区は、人口が 4,000 人弱と飯塚市の中では最も少なくなっている。また高齢化率は 32.88%と高く、高齢者の多い地域である。

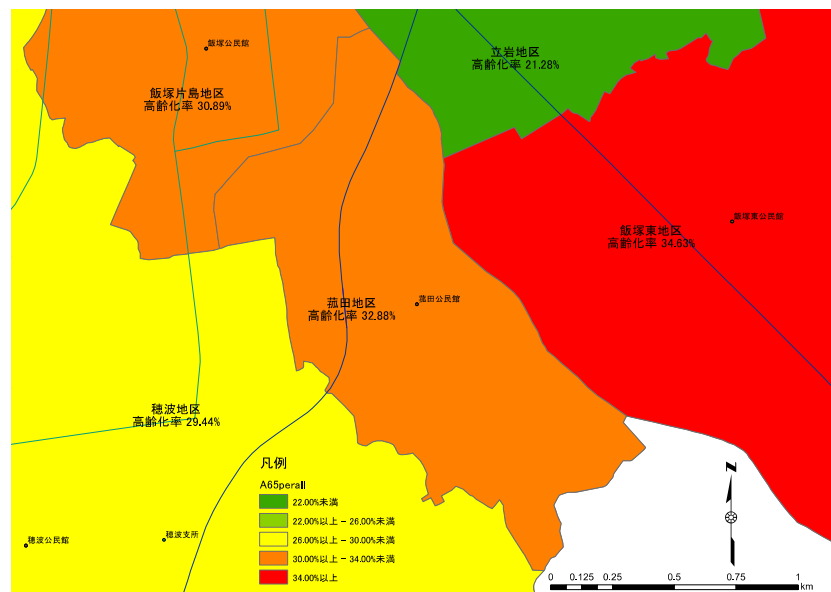


図 4.17 菰田地区の位置と高齢化率

表 4.1 菰田地区の人口と世帯数、男女比

地区名	人口	男性	女性	世帯数	15歳未満	15歳以上65歳未満	65歳以上	75歳以上	高齢化率 (65歳以上)
菰田地区	3,951	1,820	2,131	1,731	381	2,252	1,299	730	32.88%

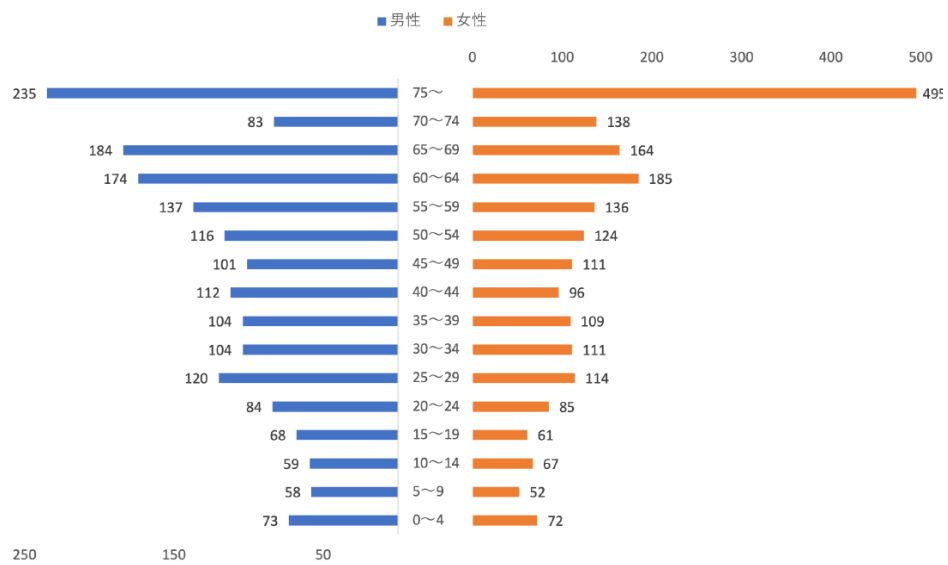


図 4.18 菰田地区人口ピラミッド

[illegible]

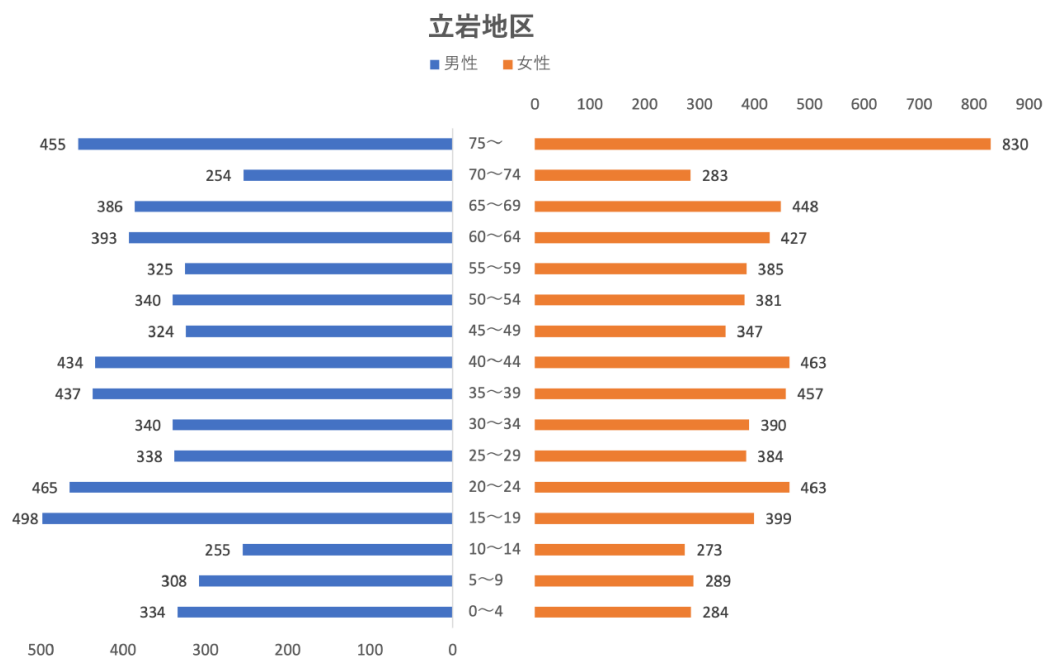


図 4.22 立岩地区人口ピラミッド

4-1-6 飯塚東交流センター

A. 諸室の平面図と利用率

飯塚東交流センターには、調理実習室をはじめとして7室ある。特徴として和室が3室ある。



図 4.23 飯塚東交流センター 1 階及び 2 階平面図

各室の利用率は下記の通りである。大研修室の利用が全時間帯を通じて多く、午前中 30-40%、午後から 15 時台まで 50-60%となっている。また 19 時-21 時台も 40%と利用率が高い。

表 4.13 飯塚東交流センター 各室利用率

設備名称	900	930	1000	1030	1100	1130	1200	1230	1300	1330	1400	1430	1500	1530	1600	1630	1700	1730	1800	1830	1900	1930	2000	2030	2100	2130	2200	2230
大研修室	10	10	33.3	33.3	33.3	23.3	26.7	10	36.7	53.3	56.7	56.7	56.7	33.3	10	0	0	0	26.7	26.7	46.7	46.7	46.7	40	40	0	0	0
第1研修室	6.67	6.67	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	13.3	26.7	26.7	26.7	30	30	16.7	10	3.33	0	0	0	0	6.67	6.67	6.67	0	0	0	0	0
第2研修室	3.33	16.7	23.3	23.3	23.3	23.3	10	10	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	10	3.33	0	0	0	0	0	10	10	10	10	10	0	0	0
調理実習室	0	0	3.33	3.33	3.33	3.33	3.33	3.33	3.33	3.33	3.33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
和室1号	0	0	20	20	20	20	20	0	6.67	6.67	6.67	6.67	6.67	0	0	0	0	0	0	0	30	30	30	30	30	0	0	0
和室2号	0	0	20	20	20	20	20	0	6.67	6.67	6.67	6.67	6.67	0	0	0	0	0	0	0	30	30	30	30	30	0	0	0
和室3号	0	0	0	0	0	0	0	0	13.3	13.3	13.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

B. 施設更新計画

飯塚東交流センターは、2003年にエレベーター増設工事、2019年に大規模改造工事を実施している。従って現在施設更新や建て替えの予定はないが、地上2階の建物には多目的トイレ・スロープ・エレベーターが完備されている。ただし利用者に対して駐車場数が14台と少ないといった課題がある。

C. 後背圏人口等の地区特性について

飯塚市の中心に近いが高齢化率は高い地域である。男女とも 60 歳台の人口が多いが、地域交流センターは小学校に隣接しており、子育て世代の利用等も期待できる地域である。

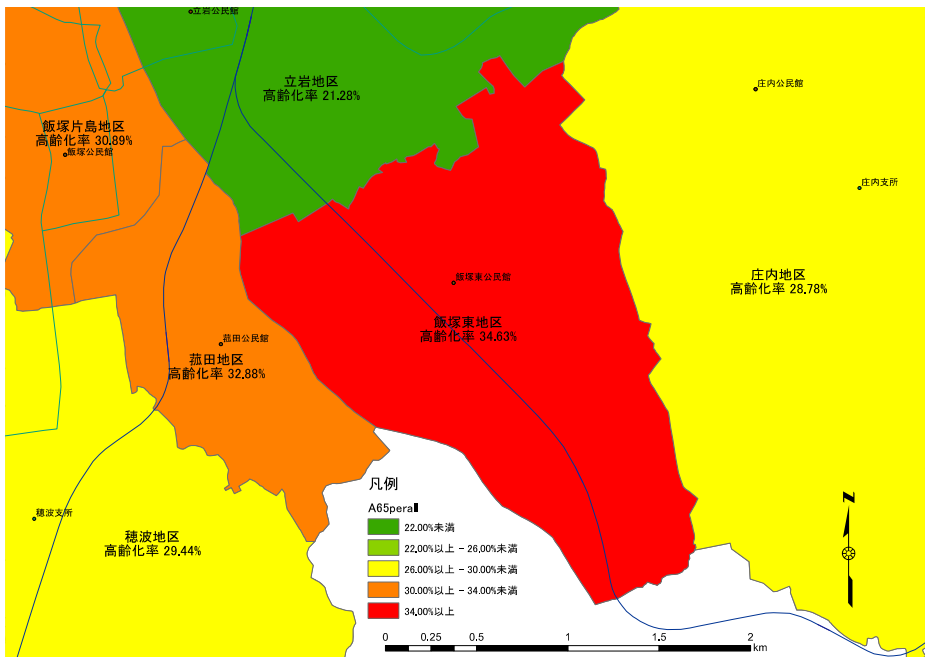


表 4.14 飯塚東地区の人口と世帯数、男女比

地区名	人口	男性	女性	世帯数	15歳未満	15歳以上65歳未満	65歳以上	75歳以上	高齢化率 (65歳以上)
飯塚東地区	6,763	3,097	3,666	3,014	785	3,587	2,342	1,190	34.63%

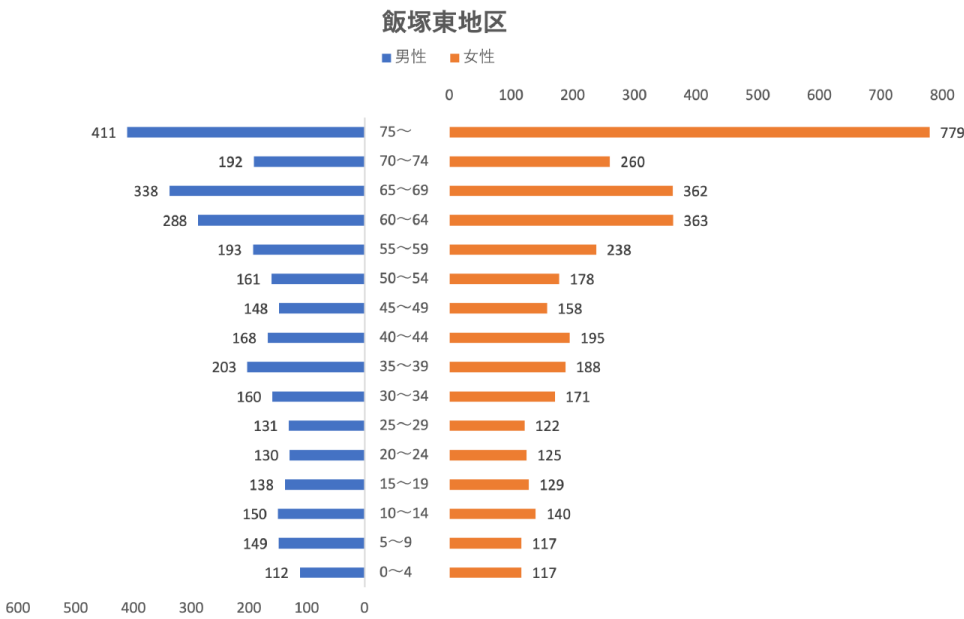


図 4.25 飯塚東地区人口ピラミッド

4-1-7 飯塚片島交流センター

A. 諸室の平面図と利用率

飯塚片島交流センターには、調理実習室をはじめとして7室ある。和室が3室ある点の特徴である。

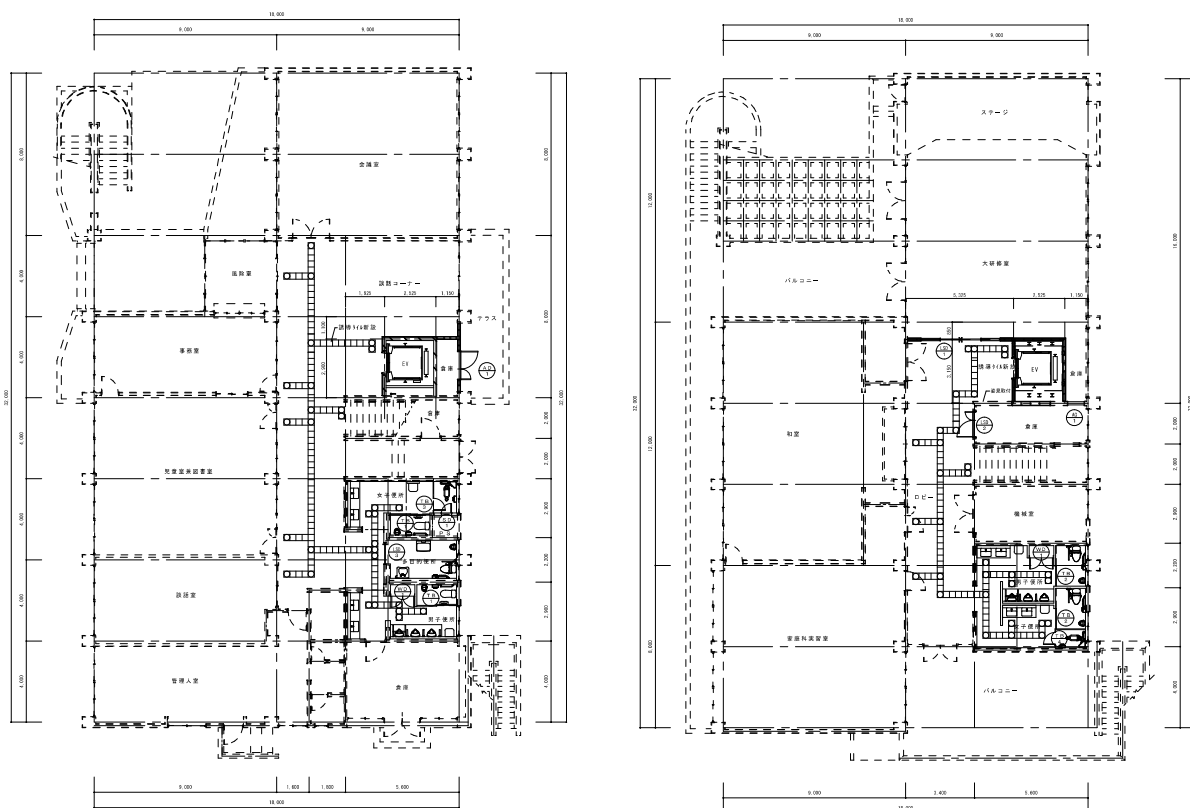


図 4.26 飯塚片島交流センター 1 階（左）及び 2 階平面図（右）：2005 年エレベーター改修後

各室の利用率は下記の通りである。調理室を除き多くの部屋に利用が見られる。特に大研修室は午後 13 時から 15 時台の利用が 60%を超えており、利用率が高い。3 室ある和室も 2 室が午後 13 時から 15 時台の利用が 40%-60%となっており多くの頻度で利用されている。

表 4.15 飯塚片島交流センター 各室利用率

設備名称	900	930	1000	1030	1100	1130	1200	1230	1300	1330	1400	1430	1500	1530	1600	1630	1700	1730	1800	1830	1900	1930	2000	2030	2100	2130	2200	2230
大研修室	0	0	46.7	46.7	46.7	46.7	46.7	0	63.3	63.3	63.3	63.3	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0	23.3	23.3	23.3	23.3	23.3	33.3	33.3	0
第1研修室	33.3	10	43.3	43.3	46.7	46.7	40	10	36.7	43.3	46.7	46.7	40	23.3	16.7	10	10	13.3	13.3	10	16.7	16.7	16.7	13.3	13.3	33.3	33.3	0
第2研修室	0	0	23.3	23.3	23.3	23.3	23.3	6.67	26.7	30	33.3	33.3	30	23.3	20	33.3	0	0	0	0	10	20	20	20	13.3	33.3	0	0
調理実習室	0	0	6.67	6.67	6.67	6.67	6.67	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
和室1号	6.67	6.67	36.7	36.7	43.3	36.7	40	33.3	46.7	46.7	56.7	56.7	56.7	20	30	20	23.3	23.3	13.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0	0	0	0	0
和室2号	6.67	6.67	36.7	36.7	43.3	36.7	40	33.3	43.3	43.3	53.3	53.3	53.3	20	30	20	20	20	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
和室3号	10	16.7	26.7	33.3	33.3	23.3	23.3	13.3	20	20	20	20	20	20	13.3	0	0	0	0	6.67	6.67	6.67	6.67	6.67	0	0	0	0

B. 施設更新計画

飯塚片島交流センターは1982年に建設された地上2回の建物であり、2006年に改修・エレベーター設置工事、2014年に太陽光パネル設置工事・蓄電器設置工事を実施している。多目的トイレ・スロープも備えている。現時点でその他に施設更新や改修の予定はない。

C. 後背圏人口等の地区特性について

高齢化率は飯塚市全体の平均より高い。人口構成も飯塚市全体と同様となっている。人口は市の中で4番目に少ない地域である。

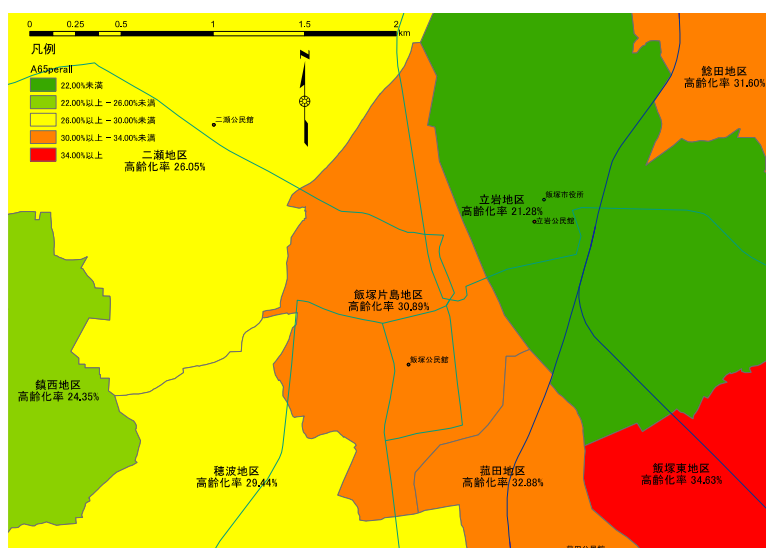


図 4.27 飯塚片島地区の位置と高齢化率

表 4.16 飯塚片島地区の人口と世帯数、男女比

地区名	人口	男性	女性	世帯数	15歳未満	15歳以上65歳未満	65歳以上	75歳以上	高齢化率 (65歳以上)
飯塚片島地区	6,494	2,885	3,609	3,001	783	3,679	2,006	1,024	30.89%

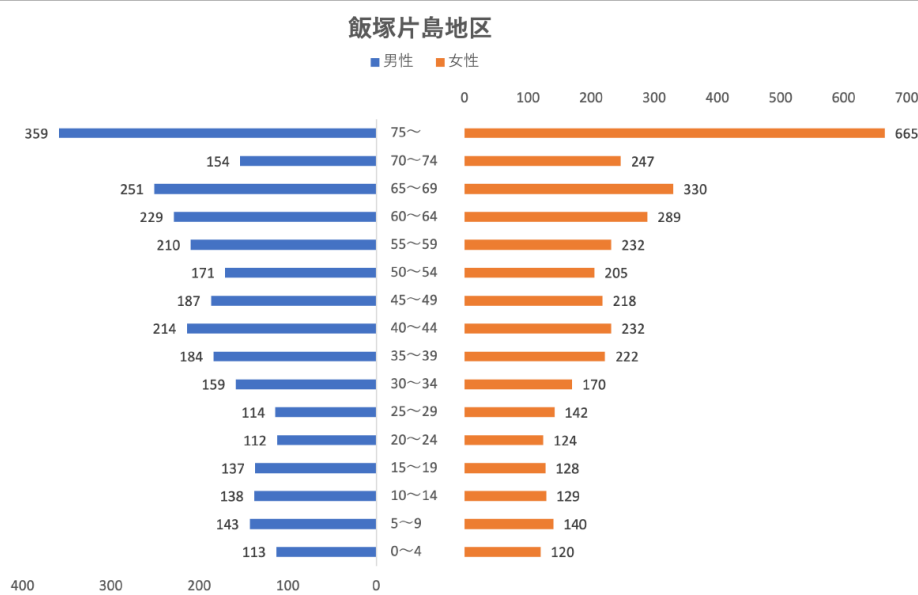


図 4.28 飯塚片島地区人口ピラミッド

4-1-8 鯉田交流センター

A. 諸室の平面図と利用率

鯉田交流センターには、調理実習室をはじめとして6室ある。児童室がある点が特徴である。

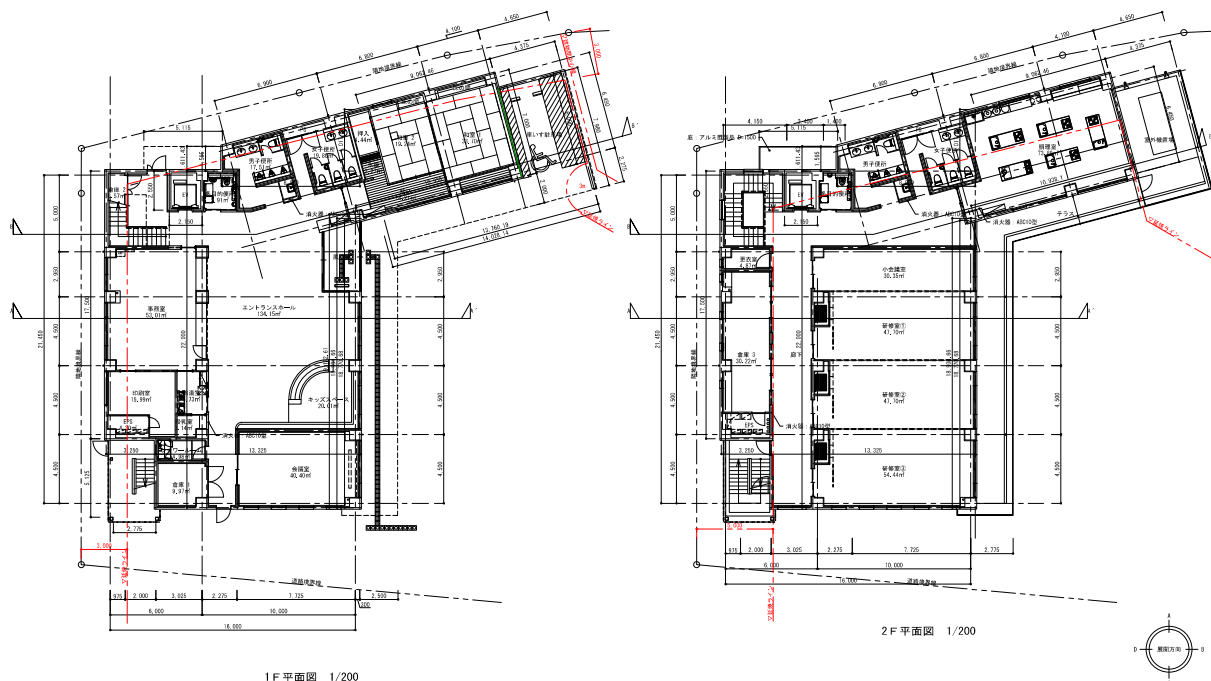


図 4.29 鯉田交流センター 1階及び2階平面図

各室の利用率は下記の通りである。大研修室が最も利用率が高く、昼12時台に40%となっている。大研修室、児童室ともにほぼ全ての開館時間に利用が見られる。

表 4.17 鯉田交流センター 各室利用率

設備名称	900	930	1000	1030	1100	1130	1200	1230	1300	1330	1400	1430	1500	1530	1600	1630	1700	1730	1800	1830	1900	1930	2000	2030	2100	2130	2200	2230
研修室	0	0	0	0	0	0	3.33	3.33	3.33	10	10	10	10	10	6.67	3.33	3.33	3.33	13.3	10	10	10	10	10	10	0	0	0
児童室	10	13.3	13.3	13.3	13.3	13.3	10	10	16.7	16.7	20	20	20	13.3	6.67	6.67	6.67	6.67	23.3	20	30	30	33.3	16.7	16.7	3.33	3.33	0
大研修室	3.33	6.67	6.67	33.3	33.3	33.3	40	40	23.3	26.7	33.3	33.3	33.3	16.7	20	6.67	6.67	3.33	3.33	3.33	26.7	36.7	33.3	20	20	10	0	0
調理実習室	0	10	10	10	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
和室1号	0	0	6.67	6.67	10	10	10	10	36.7	30	30	16.7	16.7	6.67	6.67	6.67	6.67	0	0	0	3.33	3.33	3.33	3.33	3.33	0	0	0
和室2号	0	0	6.67	6.67	10	10	10	10	30	23.3	23.3	10	10	0	0	0	0	0	0	0	3.33	3.33	3.33	3.33	3.33	0	0	0

B. 施設更新計画

鯉田交流センターは1976年に建てられ、2001年にエレベーター設置を含む改修が実施された。2021年中の建て替えが計画されている。多目的トイレ・スロープも備えている。

C. 後背圏人口等の地区特性について

中心部である立岩地区に隣接する地域であるが、高齢化率は飯塚市全体より高くなっている。人口構成は飯塚市全体とほぼ同様であり、地域の人口は市で3番目に少ない。

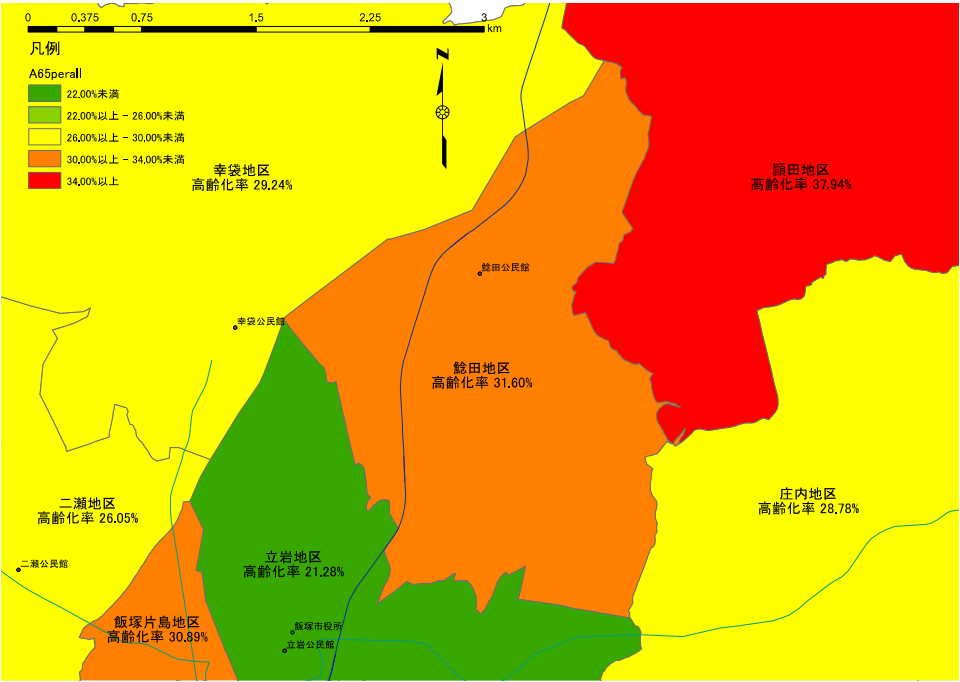


図 4.30 鯉田地区の位置と高齢化率

表 4.18 鯉田地区の人口と世帯数、男女比

地区名	人口	男性	女性	世帯数	15歳未満	15歳以上65歳未満	65歳以上	75歳以上	高齢化率 (65歳以上)
鯉田地区	6,449	2,979	3,470	2,736	801	3,543	2,038	940	31.60%

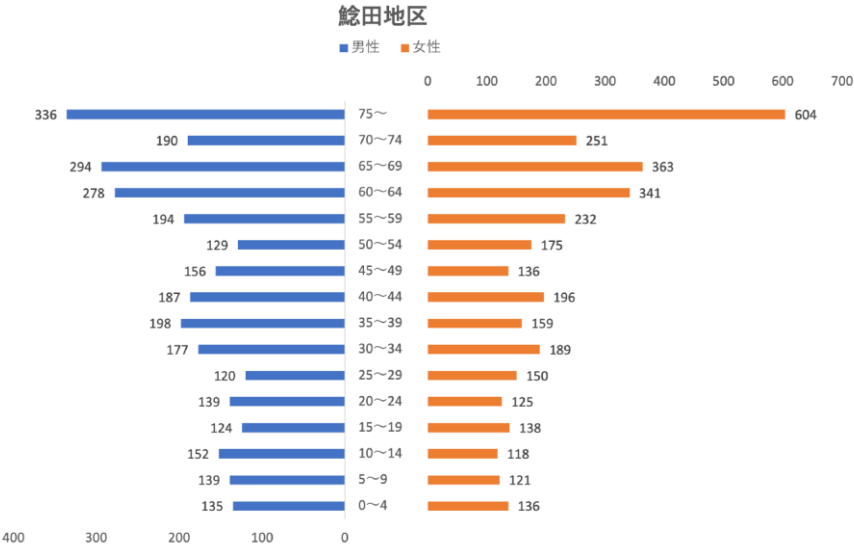


図 4.31 鯉田地区人口ピラミッド

4-1-9 穂波交流センター

A. 諸室の平面図と利用率

穂波交流センターは2020年時点で改修工事が実施されており、改修後はホール、や視聴覚室、会議室、子育て支援センター等を含む施設となる予定である。2020年時点で改修中のため、2020年10月時点の利用率のデータはない。

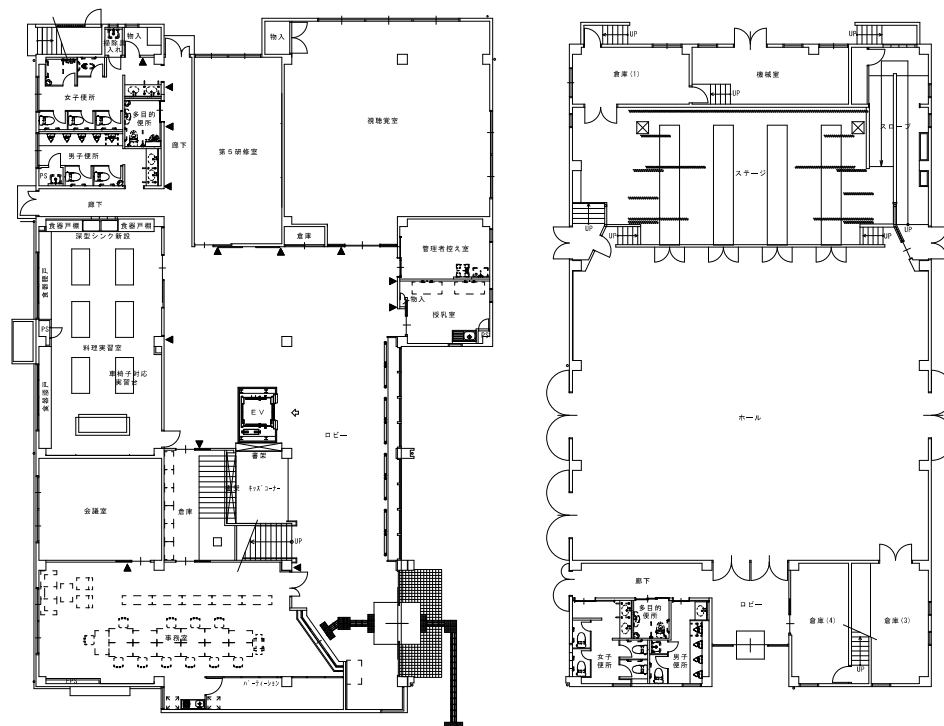


図 4.32 穂波交流センター 1階平面図



図 4.33 穂波交流センター 2階平面図

B. 施設更新計画

鯉田交流センターは1978年に建てられ、2002年の改修工事に引き続き、2020年にも改修工事を実施している。多目的トイレ・スロープ・エレベーターを備えている。

C. 後背圏人口等の地区特性について

穂波地区の高齢化率は飯塚市全体とほぼ同様であるが、人口は市内で最も多くなっている。75歳以上の人口も最多であるが、その他60歳台の人口も多く今後も高齢化率の上昇が予想される地域である。

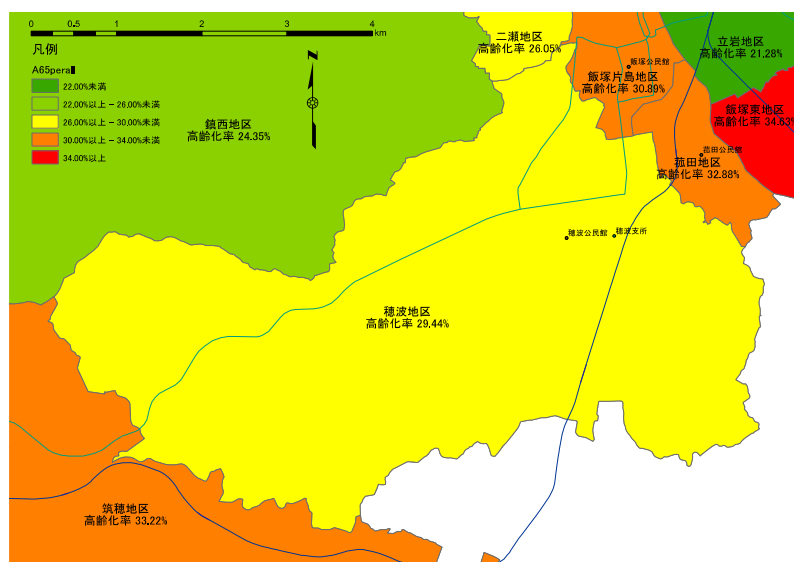


図 4.34 穂波地区の位置と高齢化率

表 4.19 穂波地区の人口と世帯数、男女比

地区名	人口	男性	女性	世帯数	15歳未満	15歳以上65歳未満	65歳以上	75歳以上	高齢化率 (65歳以上)
穂波地区	24,832	11,573	13,259	10,030	3,361	13,930	7,310	3,682	29.44%

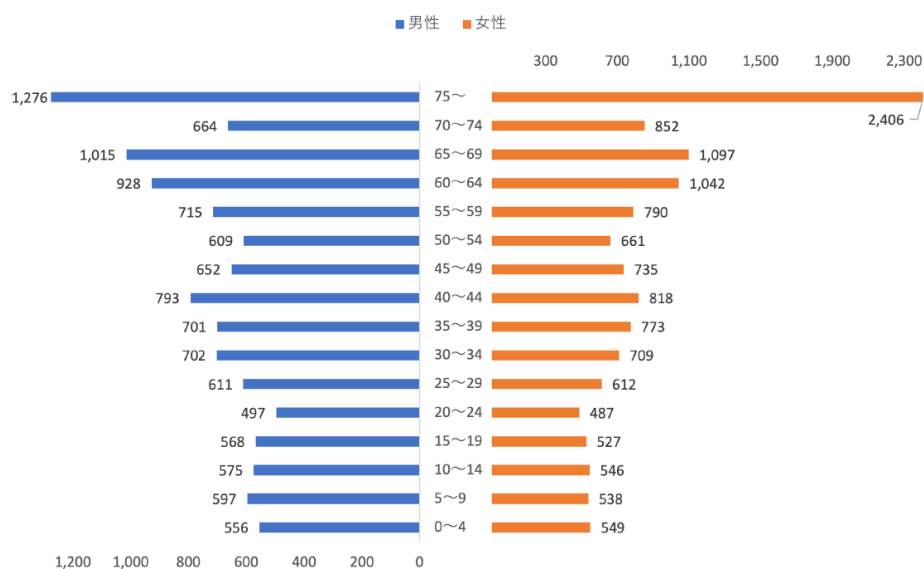


図 4.35 穂波地区人口ピラミッド